

平成23年度(3)

県政モニター アンケート報告書

テーマ「交通安全対策」

平成23年11月

も く じ

調査の概要	1
-------------	---

調査結果

1 後部座席のシートベルト着用について	3
2 飲酒運転の根絶について	7
3 夕暮れ時の交通事故防止（早めのライト点灯）について	11
4 交差点の事故防止対策について	15
5 夜間の交通事故防止（反射材）について	19
6 高齢者の交通事故防止について	23
7 家庭における交通安全教育について	27
8 交通安全対策の効果について	31
9 自由意見	33

質問と回答	42
-------------	----

調査の概要

1 調査のテーマ 交通安全対策

2 調査の趣旨

交通安全の確保は、安全で安心な社会を実現させるための重要な要素です。愛知県では、平成17年以降、交通事故による死者数が6年連続減少し、昨年は5年続いていた全国ワースト1位を返上することができましたが、未だ200人近い方が事故で亡くなられている上、6万人を超える方が負傷している厳しい状況が続いています。

交通事故は、県内で一日あたり、約700件日常的に起きている身近な出来事ですが、時に、尊い人命を奪い、当事者の幸せな家庭を一瞬にして崩壊させてしまう惨事でもあります。

しかしながら、こうした交通事故がもたらす悲劇をどこか他人事のように感じ、交通安全の大切さに気づかれていない方も多いと思います。

そこで、今回のアンケートでは、「交通安全」をテーマに選定し、県民の安全意識や考え方などを把握し、より効果的な施策に反映させるために、県政モニターの皆様にご意見をお聞きしました。

3 調査対象

県政モニター 496人 (平成23年8月22日現在)

内訳

区 分	計		名古屋地域	尾張地域	三河地域	
	人 員	構 成 比				
総 数	496人	100.0%	155人	188人	153人	
性 別	男 性	248	50.0	76	92	80
	女 性	248	50.0	79	96	73
年 代 別	20 代	77	15.5	27	26	24
	30 代	100	20.2	29	37	34
	40 代	88	17.7	28	33	27
	50 代	74	14.9	19	29	26
	60 代 以上	157	31.7	52	63	42

4 調査期間

平成23年8月1日から平成23年8月22日まで

5 調査方法

郵送・インターネット（選択）

6 回答者数

488人（回収率98.4%）

【記号・符号・用語の説明】

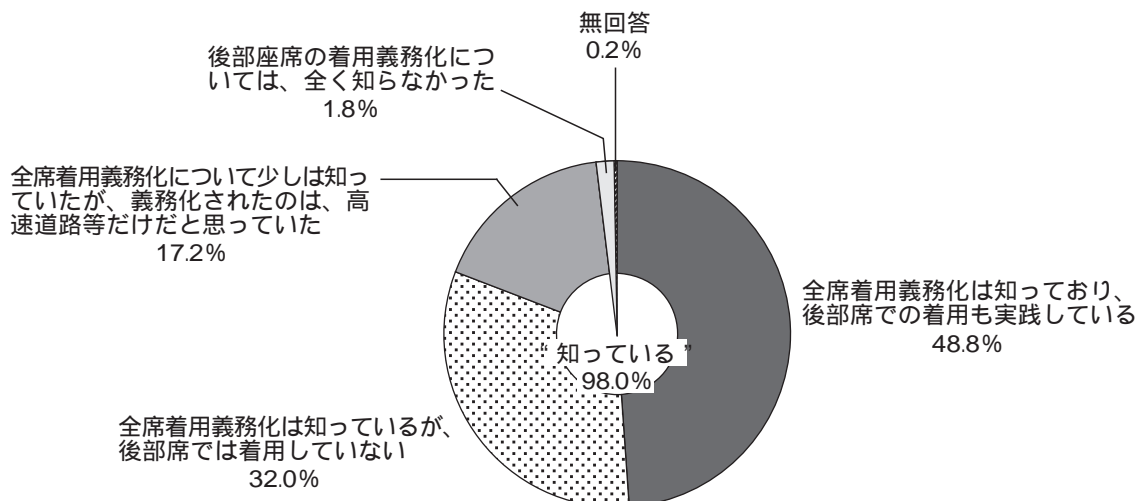
- (1) N (Number of Cases の略) は比例算出の基数であり、100%が何人の回答者に相当するかを示す。
- (2) M. T. (Multiple Total) は複数回答を認める質問に対する回答の比率の合計を示す。(無回答者の数値は含まない。)
- (3) 回答が1つの質問であっても、小数第2位を四捨五入して割合を求めているため、合計が100%にならないことがある。

調査結果

1 後部座席のシートベルト着用について

問1 平成20年6月から、後部座席も含めたすべての座席においてシートベルトの着用が義務化されました（行政処分は高速道路のみ）が、知っていますか。（回答は1つ）

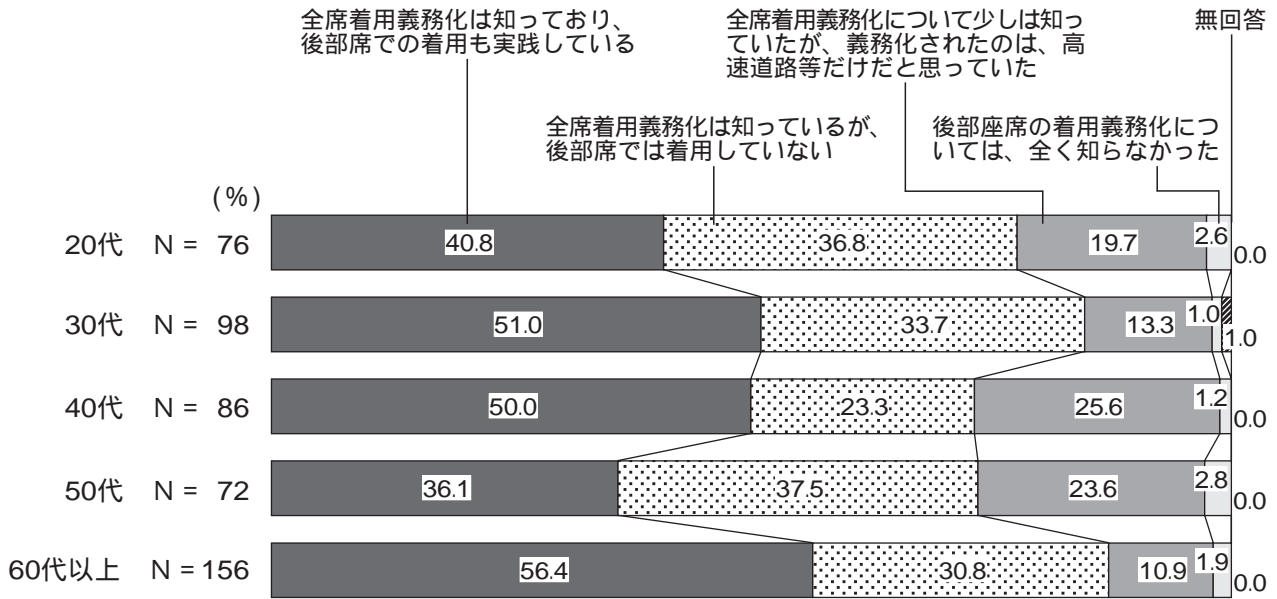
N = 488



平成20年6月から、後部座席も含めたすべての座席においてシートベルトの着用が義務化されたことを知っているか尋ねたところ、「全席着用義務化は知り、後部座席での着用も実践している」が48.8%、「全席着用義務化は知っているが、後部座席では着用していない」が32.0%、「全席着用義務化について少しは知っていたが、義務化されたのは、高速道路等だけだと思っていた」が17.2%で、これらを合わせた“知っている”が98.0%に対し、「後部座席の着用義務化については、全く知らなかった」が1.8%となっている。

年代別にみると、「全席着用義務化は知り、後部座席での着用も実践している」と答えた人の割合は、30代、40代及び60代以上では5割を超えたが、20代と50代では4割前後にとどまっている。

(年代別)



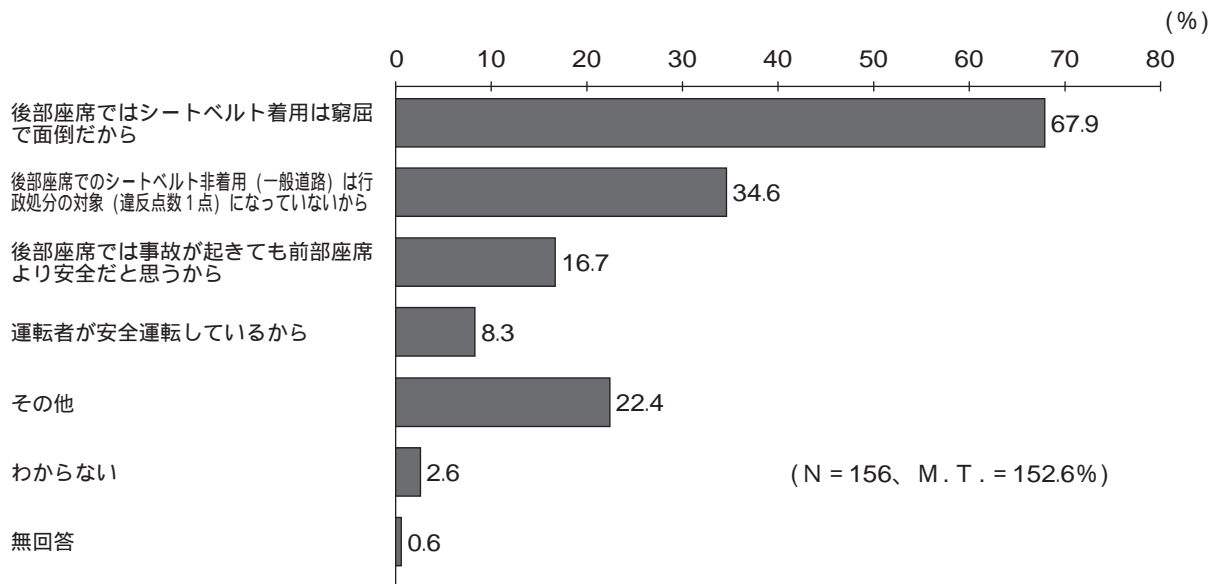
全席シートベルトの着用が義務化されてから3年が経過し、義務化に関する認知度は非常に高くなっていますが、未だに「全席着用義務化は知っているが、後部席では着用していない」が全体の約3分の1を占め、認知度と着用が結びついていないことがうかがえます。

県は、各季節の交通安全運動、シートベルト・チャイルドシートの日（毎月20日）を中心に、交通講話等の機会を利用して、非着用の危険性を訴えるほか、街頭における広報啓発活動を推進します。

(県民生活部地域安全課)

(問1で2を選択した人にお尋ねします。)

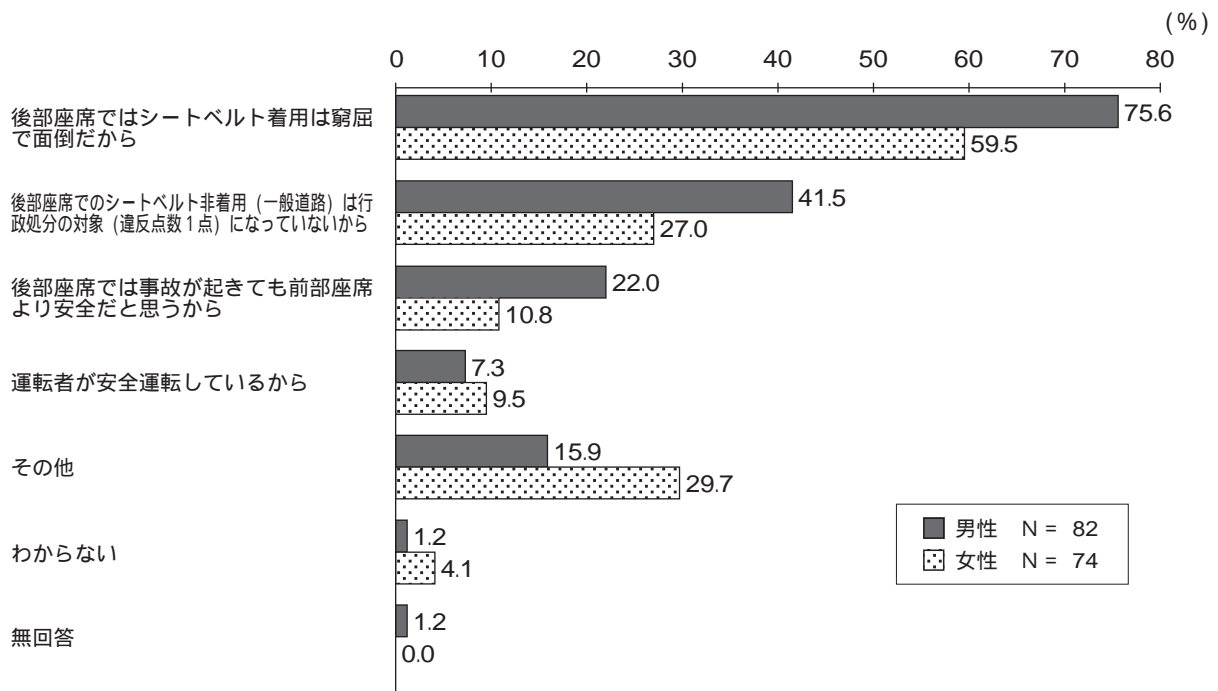
問2 後部座席でシートベルトを着用しないのは、なぜですか。(回答は2つまで)



問1で「全席着用義務化は知っているが、後部座席では着用していない」と回答された方に、後部座席でシートベルトを着用しないのはなぜか尋ねたところ、「後部座席ではシートベルト着用は窮屈で面倒だから」が67.9%に対し、「後部座席でのシートベルト非着用(一般道路)は行政処分の対象(違反点数1点)になっていないから」が34.6%、「後部座席では事故が起きても前部座席より安全だと思うから」が16.7%、「運転者が安全運転しているから」が8.3%などとなっている。

男女別にみると、「運転者が安全運転しているから」と答えた人の割合は、女性の方が多かったが、それ以外の項目では全て男性が女性を上回っている。

(男女別)



「後部座席ではシートベルト着用は窮屈で面倒だから」が67.9%と高い割合になっておりますが、「後部座席でのシートベルト非着用（一般道路）は行政処分の対象（違反点数1点）になっていないから」と「後部座席では事故が起きても前部座席より安全だと思うから」も少ないとは言えない結果となっていることから、後部座席におけるシートベルト非着用に対する危険度の認識が低い実態がうかがえます。

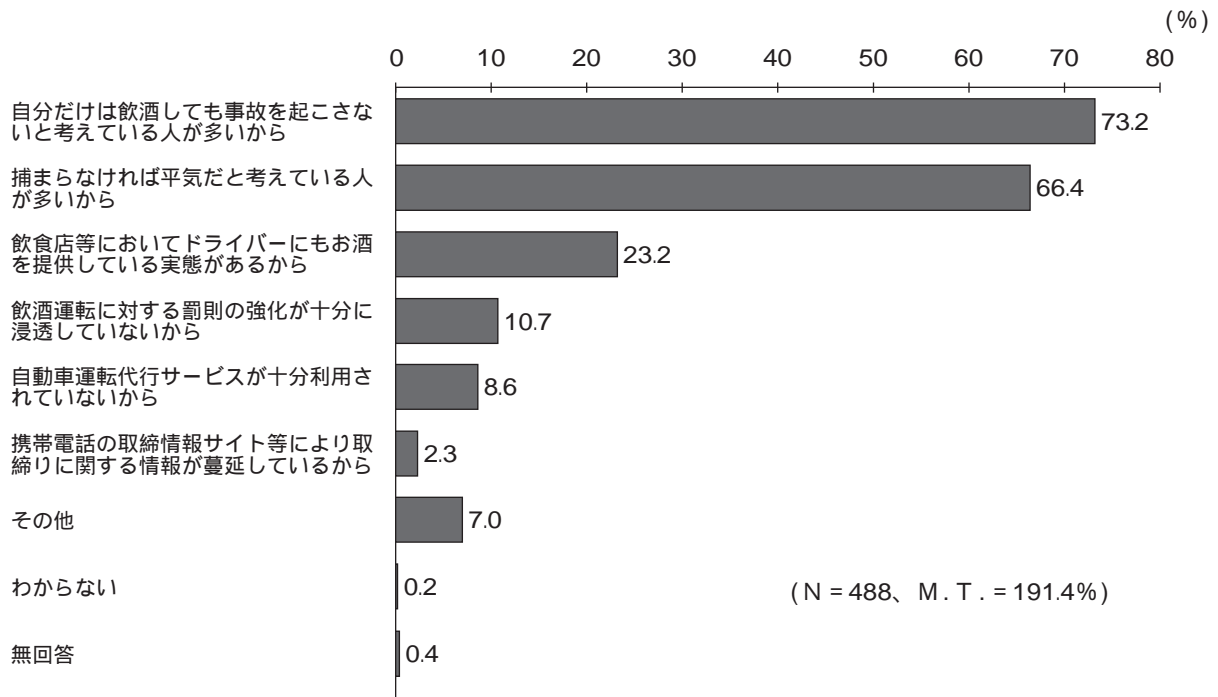
県は、警察や関係団体等と連携し、非着用の危険性を体験できるシートベルト衝撃体験機や自動車衝突実験の映像を活用した啓発活動を推進し、非着用の危険性を訴え、全席シートベルト着用の徹底を図ります。

(県民生活部地域安全課)

2 飲酒運転の根絶について

問3 愛知県では、残念なことに飲酒運転による交通死亡事故の発生件数が減少傾向にあるものの、全国で最も多い状況が過去3年続いています。

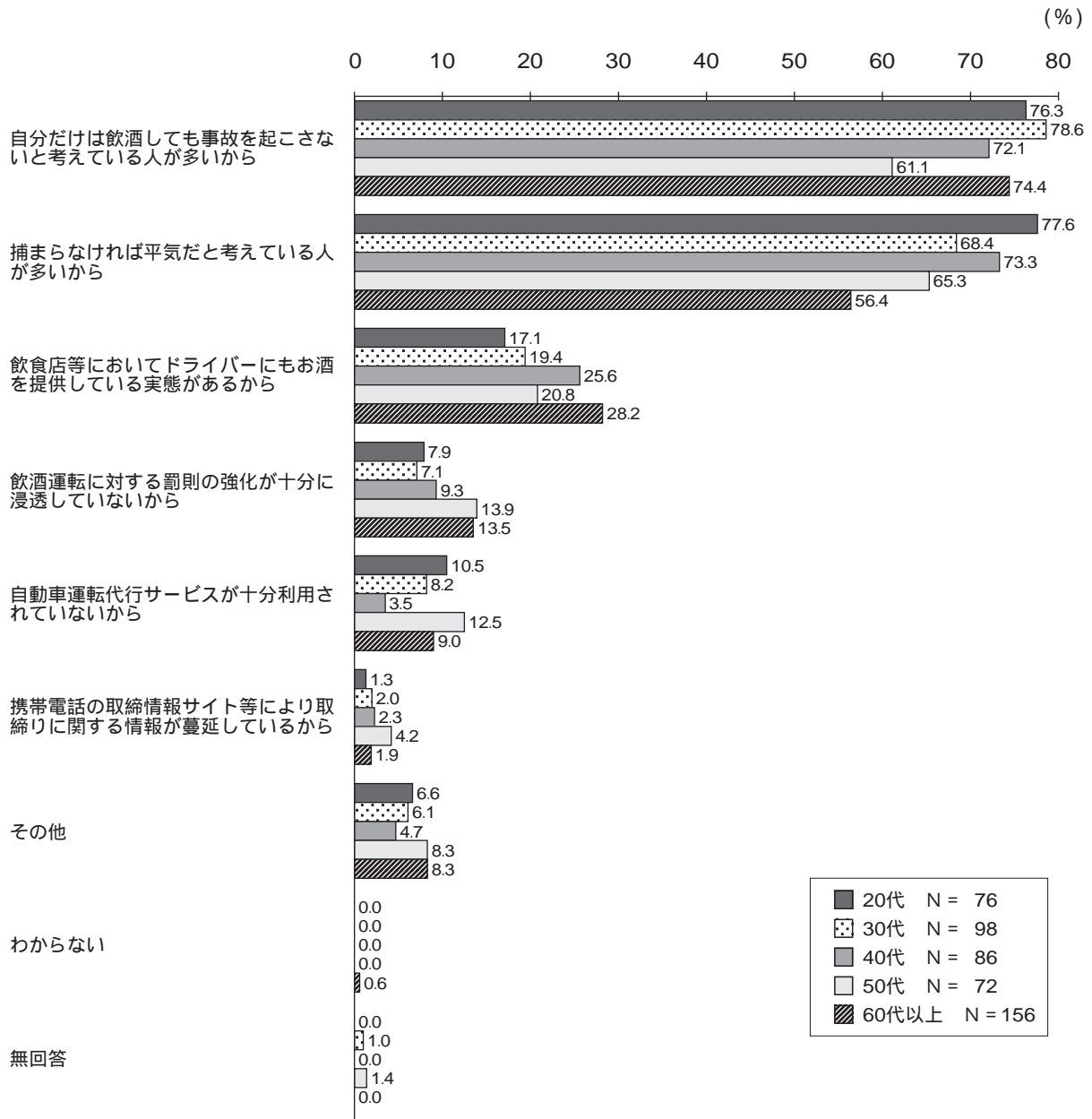
罰則や行政処分が強化されているにもかかわらず、飲酒運転が依然後を絶たないのはなぜだと考えますか。(回答は2つまで)



罰則や行政処分が強化されているにもかかわらず、飲酒運転が依然後を絶たないのはなぜだと考えるか尋ねたところ、「自分だけは飲酒しても事故を起こさないと考えている人が多いから」が73.2%、「捕まらなければ平気だと考えている人が多いから」が66.4%、「飲食店等においてドライバーにもお酒を提供している実態があるから」が23.2%、「飲酒運転に対する罰則の強化が十分に浸透していないから」が10.7%などとなっている。

年代別にみると、「自分だけは飲酒しても事故を起こさないと考えている人が多いから」と答えた人の割合は、30代と60代以上で最も高く、「捕まらなければ平気だと考えている人が多いから」と答えた人の割合は、20代、40代及び50代で最も高くなっている。

(年代別)

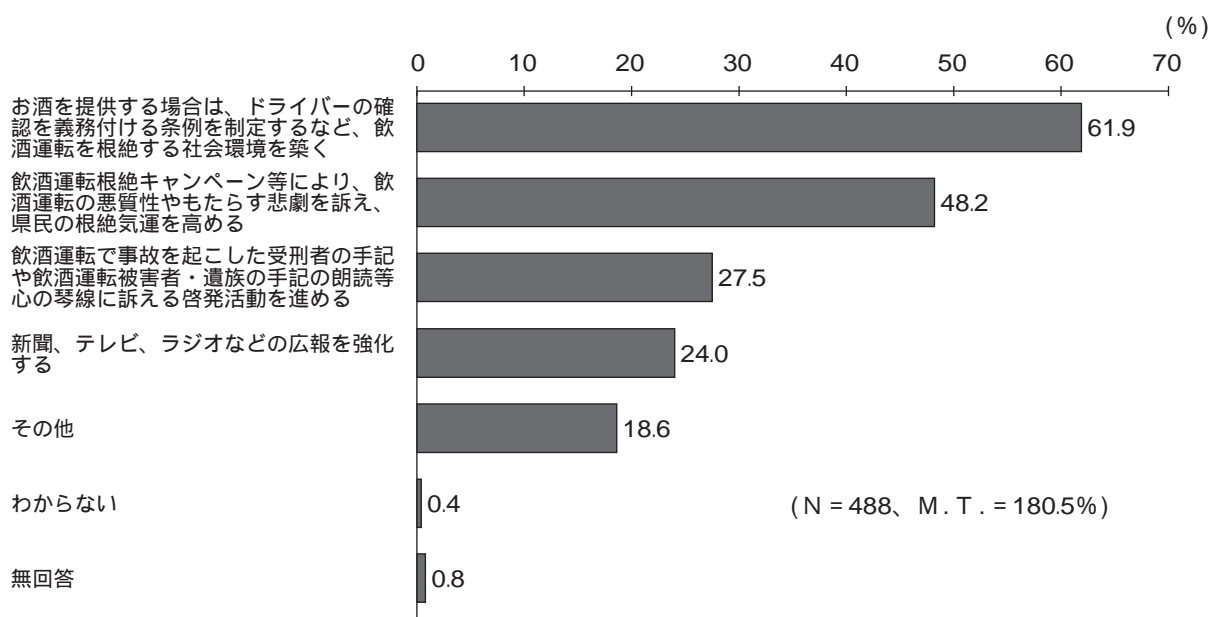


罰則や行政処分が強化されているにもかかわらず、飲酒運転が後を絶たないことについて「自分だけは飲酒しても事故を起こさないと考えている人が多いから」と答えた人が73.2%、また、「捕まらなければ平気と考えている人が多いから」と答えた人が66.4%など高い割合です。飲酒運転の事故に関して他人事のように感じている人が多いという結果でした。

飲酒運転を根絶するため、県は、警察や市町村・関係機関などと連携を図りながら、地域、職場、家庭等に飲酒運転の危険性、飲酒運転による事故の重大さ・悲惨さ・悪質性をあらゆる機会に広報媒体等を活用して広く県民に周知し、飲酒運転の根絶に向けた意識の高揚と啓発を図っていきます。

(県民生活部地域安全課)

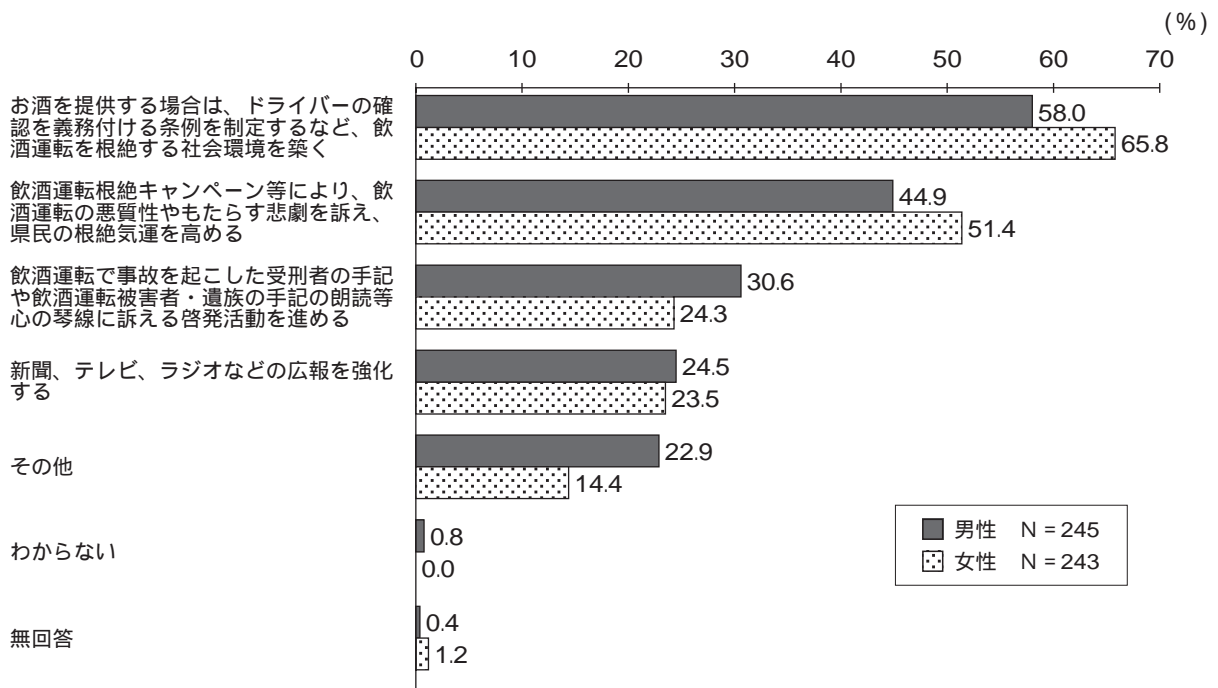
問4 飲酒運転を根絶させるためにどのような活動が効果的だと思いますか。(回答は2つまで)



飲酒運転を根絶させるためにどのような活動が効果的だと思うかを尋ねたところ、「お酒を提供する場合は、ドライバーの確認を義務付ける条例を制定するなど、飲酒運転を根絶する社会環境を築く」が61.9%、「飲酒運転根絶キャンペーン等により、飲酒運転の悪質性やもたらす悲劇を訴え、県民の根絶気運を高める」が48.2%、「飲酒運転で事故を起こした受刑者の手記や飲酒運転被害者・遺族の手記の朗読等心の琴線に訴える啓発活動を進める」が27.5%、「新聞、テレビ、ラジオなどの広報を強化する」が24.0%などとなっている。

男女別にみると「お酒を提供する場合は、ドライバーの確認を義務付ける条例を制定するなど、飲酒運転を根絶する社会環境を築く」、「飲酒運転根絶キャンペーン等により、飲酒運転の悪質性やもたらす悲劇を訴え、県民の根絶気運を高める」と答えた人の割合は、女性の方が男性よりも高くなっている。

(男女別)



飲酒運転を根絶させるための活動については、多くの人が地域、職場、家庭など社会全体で飲酒運転をさせない環境を築くことの必要性を感じています。

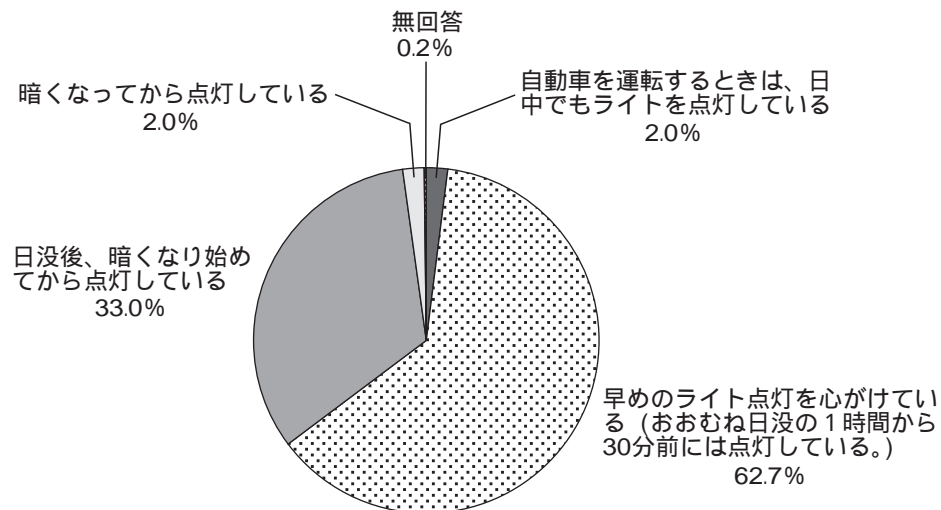
県は、今後、警察や市町村と連携して、飲食店や運転代行等の業界、事業所に働きかけて環境を醸成するとともに、飲酒運転根絶キャンペーンや飲酒体験ゴーグル等を利用した実践的な講習や飲酒運転の受刑者や事故の遺族の手記を活用するなど、県民の心の琴線に訴えるような啓発活動を展開していきます。

(県民生活部地域安全課)

3 夕暮れ時の交通事故防止（早めのライト点灯）について

問5 愛知県では、夕暮れ時の交通事故を防止するために、自動車のライトを早めに点灯させる「ライド&ライト運動」を展開していますが、あなた（家族の方）は、夕暮れ時に早めにライトを点灯していますか。（回答は1つ）

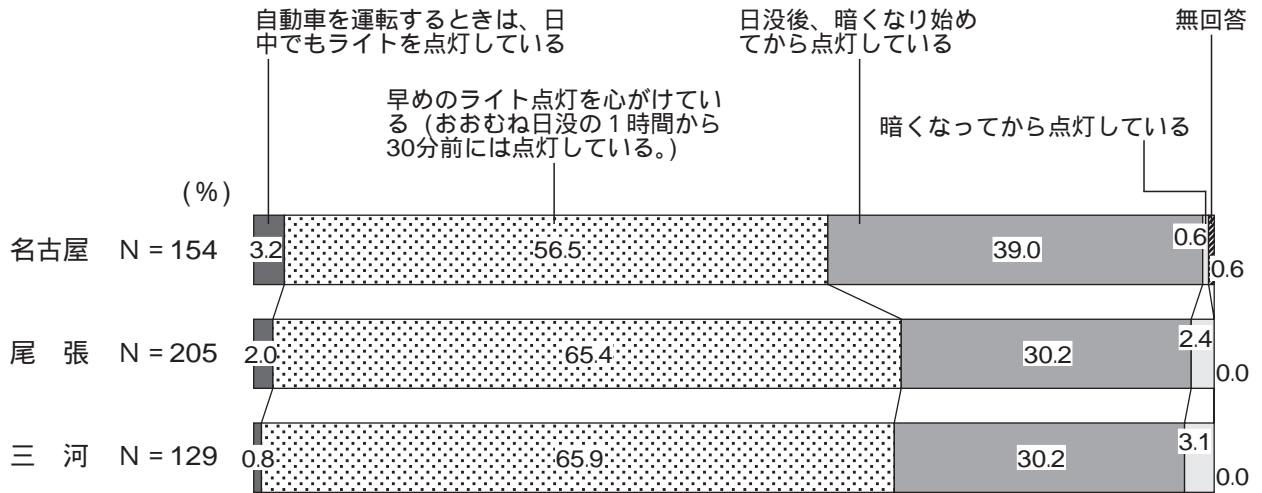
N = 488



夕暮れ時の交通事故を防止するために、早めにライトを点灯しているかを尋ねたところ、「自動車を運転するときは、日中でもライトを点灯している」が2.0%、「早めのライト点灯を心がけている（おおむね日没の1時間から30分前には点灯している）」が62.7%、「日没後、暗くなり始めてから点灯している」が33.0%、「暗くなってから点灯している」が2.0%などとなっている。

地域別にみると、「早めのライト点灯を心がけている（おおむね日没の1時間から30分前には点灯している。）」と答えた人の割合は、尾張地域と三河地域の6割超に比べ、名古屋地域では若干低くなっている。

(地域別)



「早めのライト点灯を心がけている」が全体の約6割と高くなっていますが、「日没後、暗くなり始めてから点灯している」も全体の3分の1となっています。

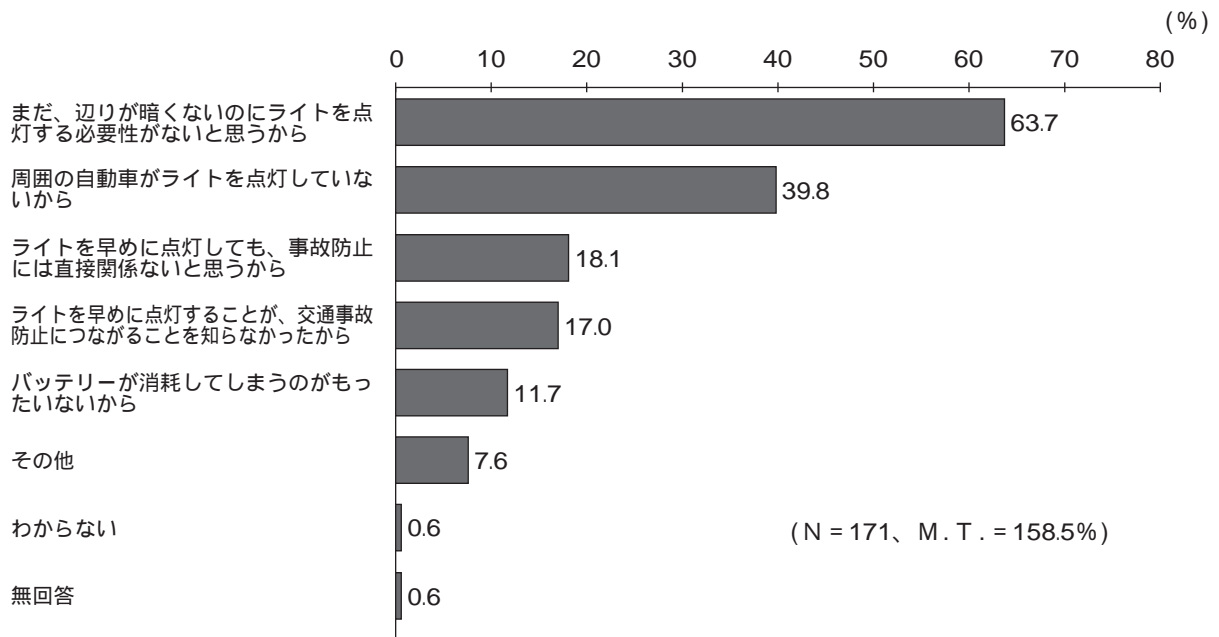
中でも、街灯や店舗の照明などの多い名古屋市内で点灯時期が遅くなることがうかがえます。

県は、ライド&ライト関所、各季節の交通安全県民運動を中心として、街頭キャンペーン、交通安全教室等の広報啓発活動を推進し、ライド&ライト運動の浸透を図ります。

(県民生活部地域安全課)

(問5で、3か4を選択した人にお尋ねします。)

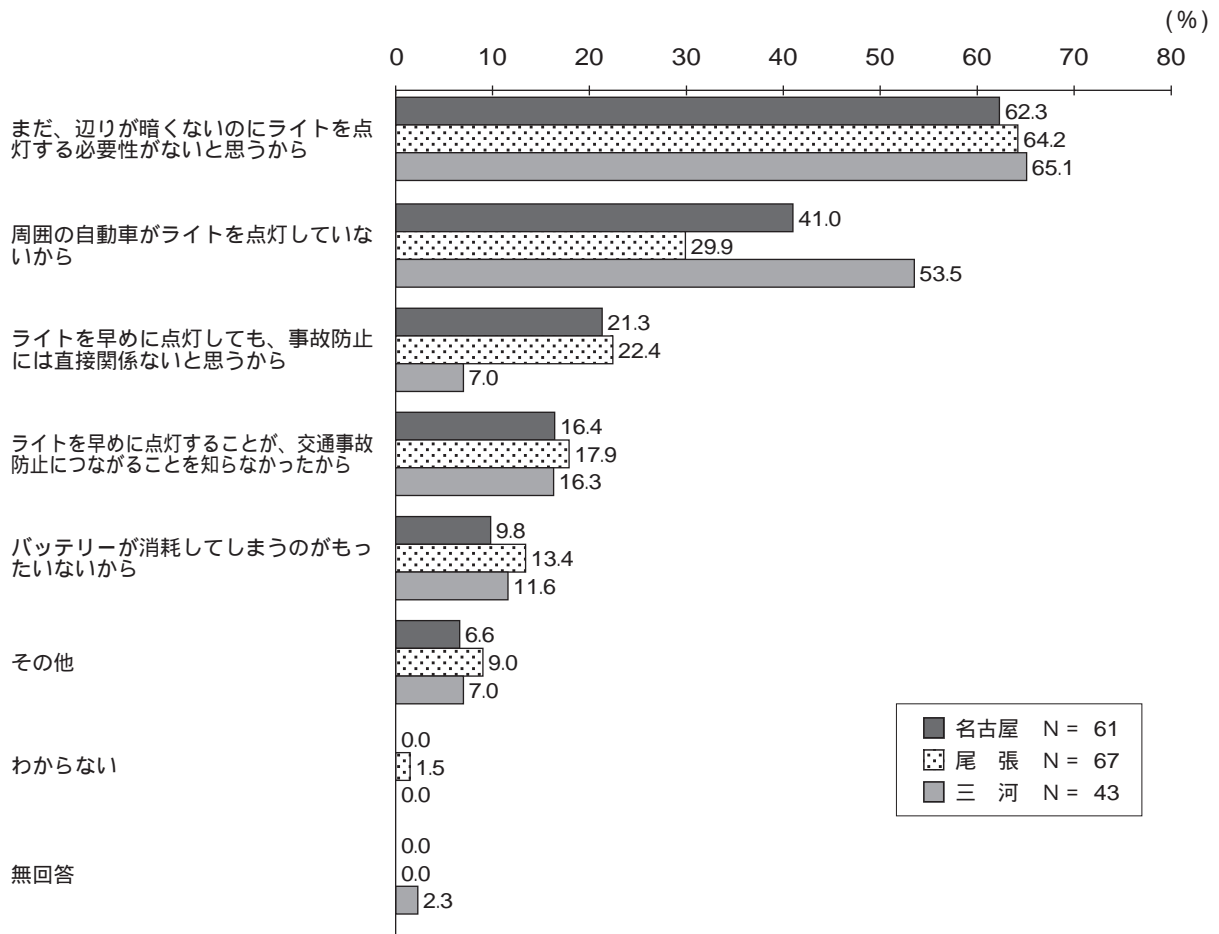
問6 ライトの早めの点灯をしていない理由は、何ですか。(回答は2つまで)



問5で「日没後、暗くなり始めてから点灯している」、「暗くなってから点灯している」と回答された方に、ライトの早めの点灯をしていない理由について尋ねたところ、「まだ、辺りが暗くないのにライトを点灯する必要がないと思うから」が63.7%、「周囲の自動車がライトを点灯していないから」が39.8%、「ライトを早めに点灯しても、事故防止には直接関係ないと思うから」が18.1%、「ライトを早めに点灯することが、交通事故防止につながることを知らなかったから」が17.0%などとなっている。

地域別にみると、「周囲の自動車がライトを点灯していないから」と答えた人の割合は、名古屋地域41.0%、尾張地域29.9%に比べて、三河地域では53.5%と比較的高くなっている。

(地域別)



「まだ、辺りが暗くないのにライトを点灯する必要がないと思うから」、「周囲の自動車がライトを点灯していないから」が非常に高くなっています。特に三河地域では、周囲の自動車のライトの点灯状況をライト点灯の判断の一つとしている傾向があるようです。

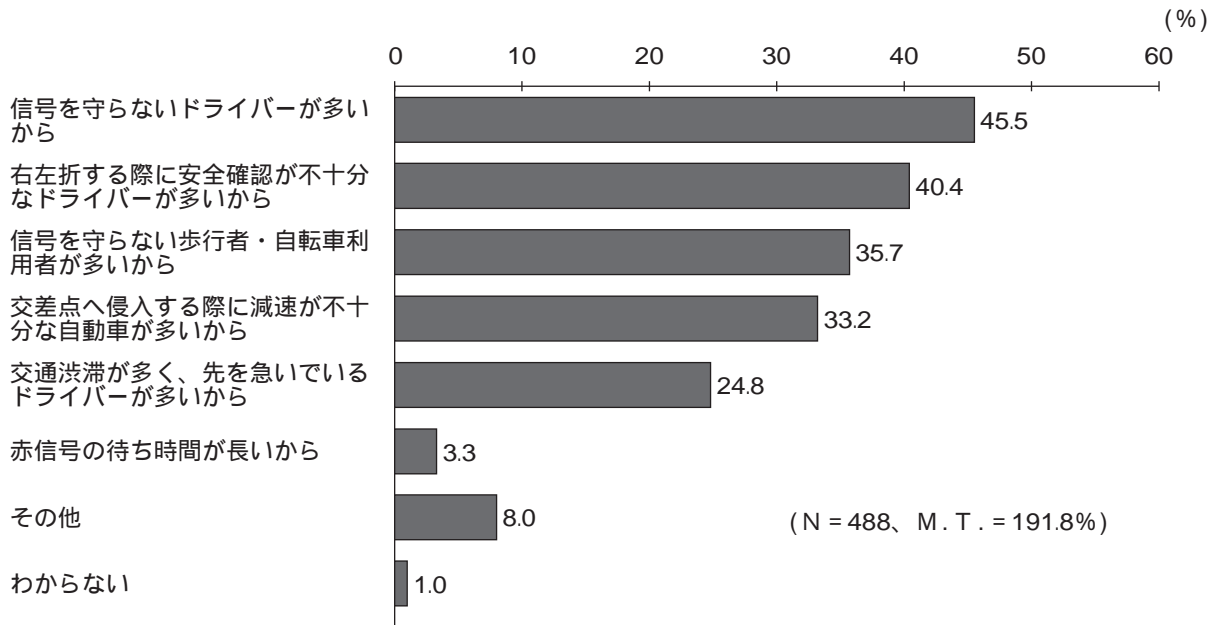
県は、各種広報啓発活動を通じてドライバーが周囲を見るためだけでなく、自身が運転する車の存在をいち早く周囲に知らせるためとして、交通事故を防止する手段として、早めのライト点灯の実践を促進し、ライド&ライト運動の浸透を図ります。

(県民生活部地域安全課)

4 交差点の事故防止対策について

問7 県内では、交通死亡事故の約6割が交差点で発生しており、この割合は、全国平均より2割高くなっています。なぜ、愛知県では、交差点事故の割合が高いと思いますか。

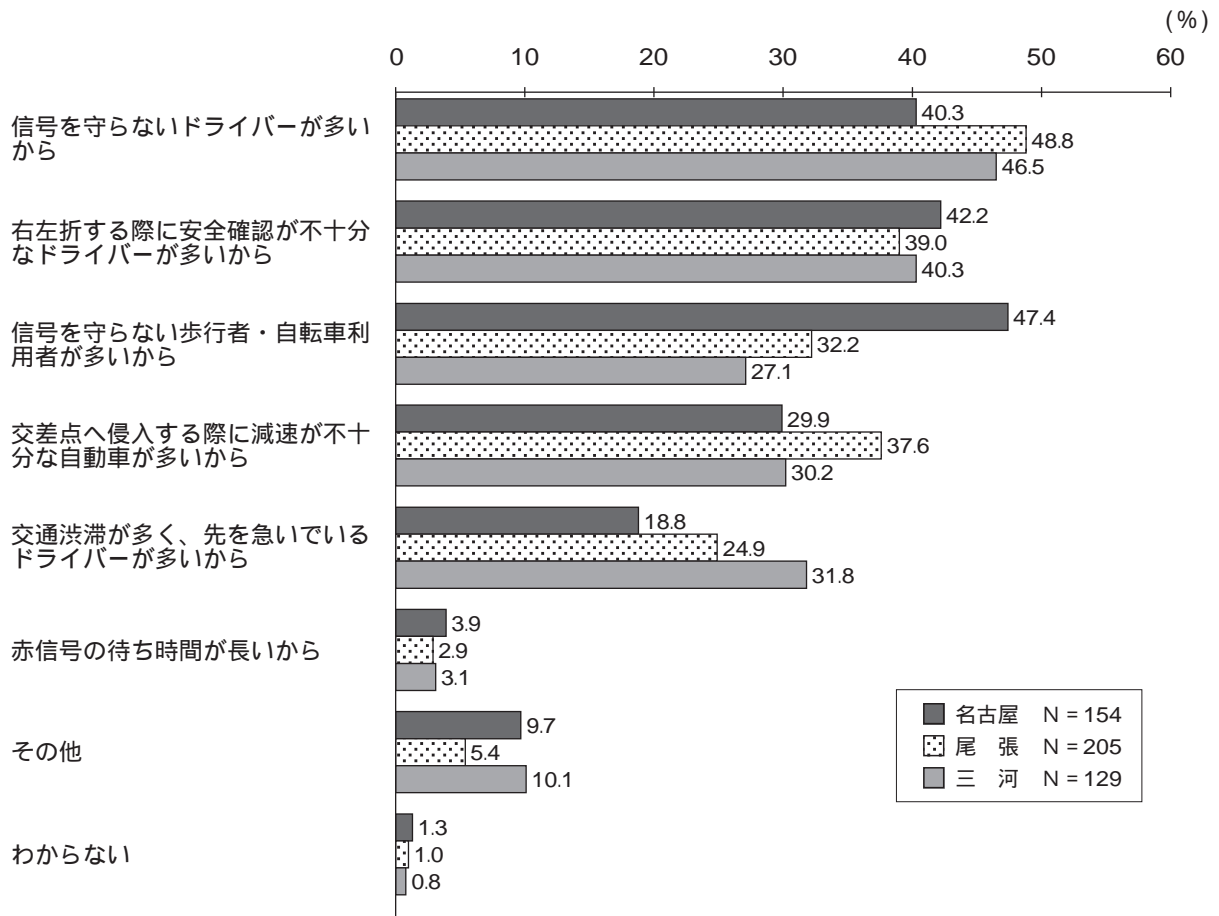
(回答は2つまで)



なぜ、愛知県では、交差点事故の割合が高いと思うかを尋ねたところ、「信号を守らないドライバーが多いから」が45.5%、「右左折する際に安全確認が不十分なドライバーが多いから」が40.4%、「信号を守らない歩行者・自転車利用者が多いから」が35.7%、「交差点へ侵入する際に減速が不十分な自動車が多いから」が33.2%などとなっている。

地域別でみると、「信号を守らないドライバーが多いから」と答えた人の割合は、尾張地域と三河地域で最も高く、名古屋地域では「信号を守らない歩行者・自転車利用者が多いから」が最も高くなっている。

(地域別)



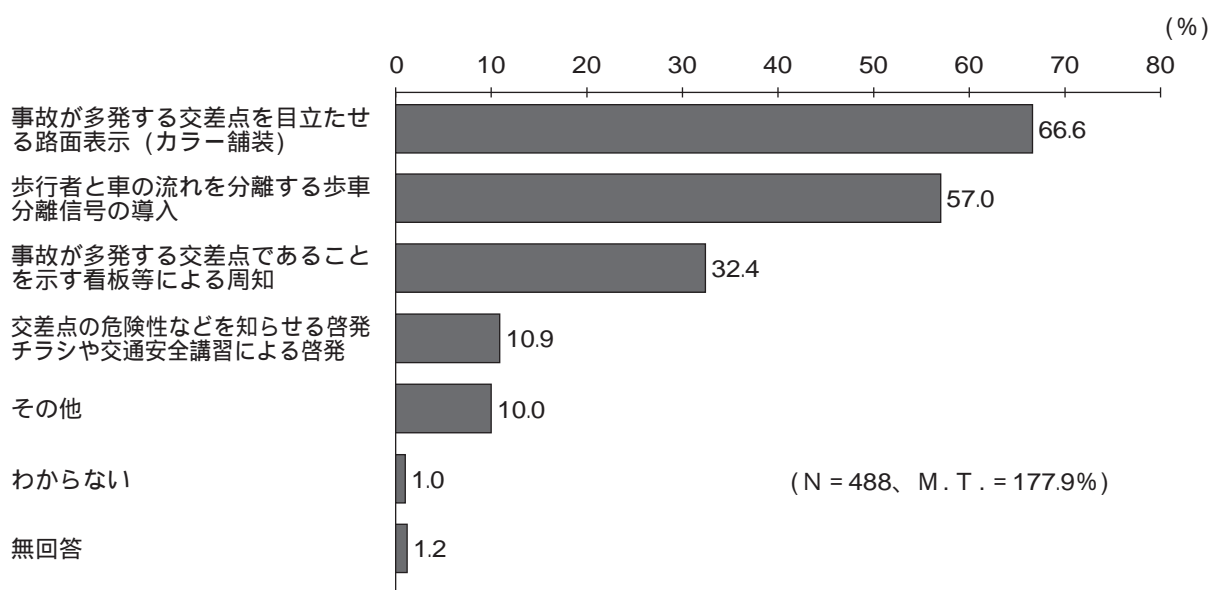
交差点事故の割合が高い原因について、多くの人がドライバー、歩行者、自転車が互いに信号を守らないことや安全確認不足などであると感じています。

県は、警察や市町村と連携して、交通安全スリーS運動（ドライバー等にストップ・スロー・スマートを呼びかけ、安全な行動の定着を図る運動）等の啓発活動を通じて、道路利用者相互の思いやり意識高揚と交通マナーの向上に向けた取組を一層推進します。

(県民生活部地域安全課)

問8 交差点における事故を減らすためには、どんな対策が効果的だと思いますか。

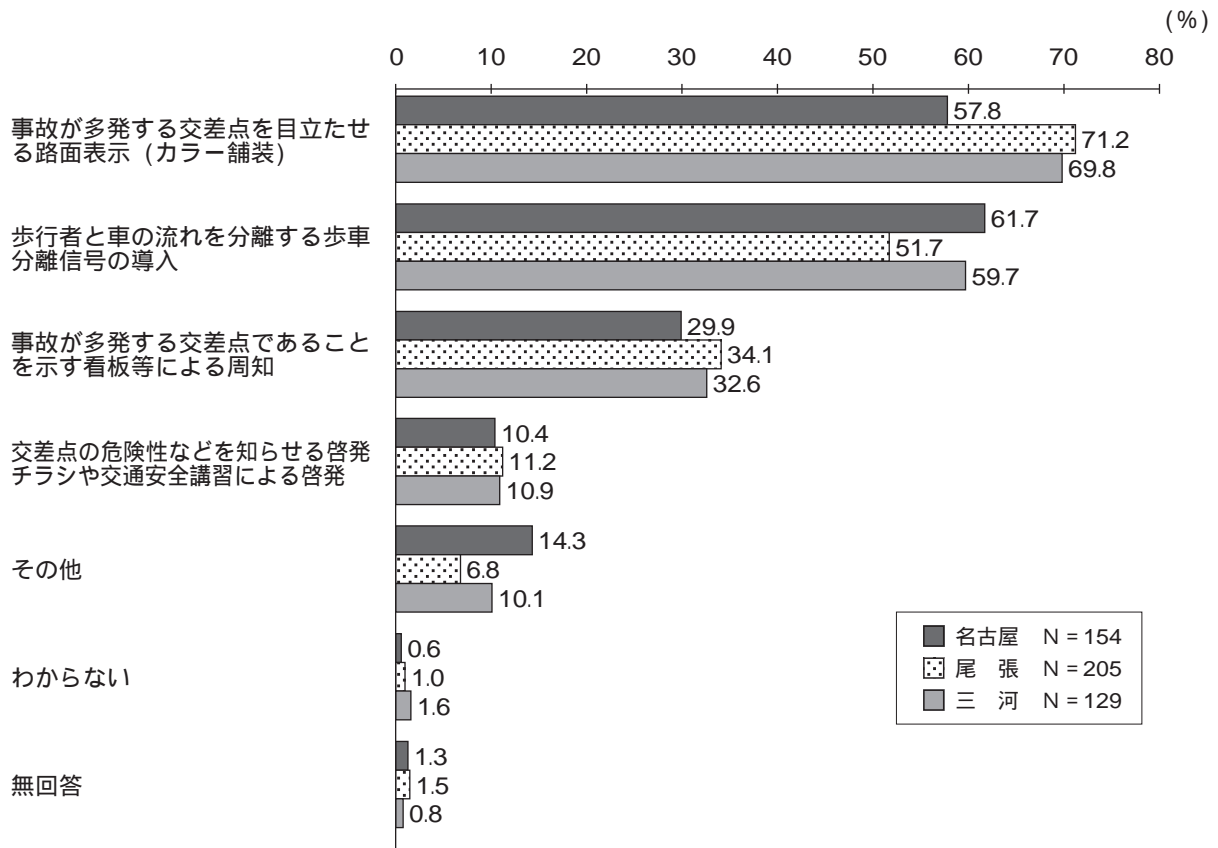
(回答は2つまで)



交差点における事故を減らすためには、どんな対策が効果的だと思うかを尋ねたところ、「事故が多発する交差点を目立たせる路面表示 (カラー舗装)」が66.6%、「歩行者と車の流れを分離する歩車分離信号の導入」が57.0%、「事故が多発する交差点であることを示す看板等による周知」が32.4%、「交差点の危険性などを知らせる啓発チラシや交通安全講習による啓発」が10.9%などとなっている。

地域別にみると、「事故が多発交差点を目立たせる路面表示 (カラー舗装)」と答えた人の割合は、尾張地域と三河地域で最も高く、名古屋地域では「歩行者と車の流れを分離する歩車分離信号の導入」が最も高くなっている。

(地域別)



交差点における事故を減らすために、多くの人がカラー舗装や歩車分離信号、事故多発交差点の看板表示など、視覚に訴えるものや物理的に歩行者と車等の流れを分離することが効果的と感じています。

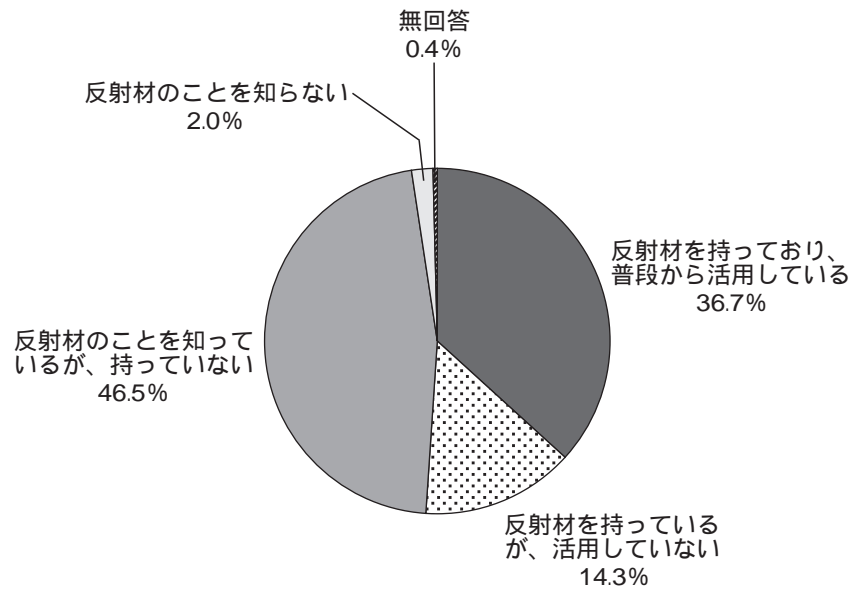
警察や道路管理者と連携し、危険交差点の改良を進めるとともに、交差点事故の実態や道路の安全な横断方法を疑似体験できる「歩行環境シミュレータ」を活用していただくほか、交通安全スリッパ運動、ハンド・アップ運動（道路を渡る際に手をあげることを推進する運動）などの啓発活動も積極的に展開していきます。

(県民生活部地域安全課)

5 夜間の交通事故防止（反射材）について

問9 夜間の交通事故を防止するためには、反射材を身に着けたり、自転車につけたりすることが効果的ですが、あなたは反射材を活用していますか。（回答は1つ）

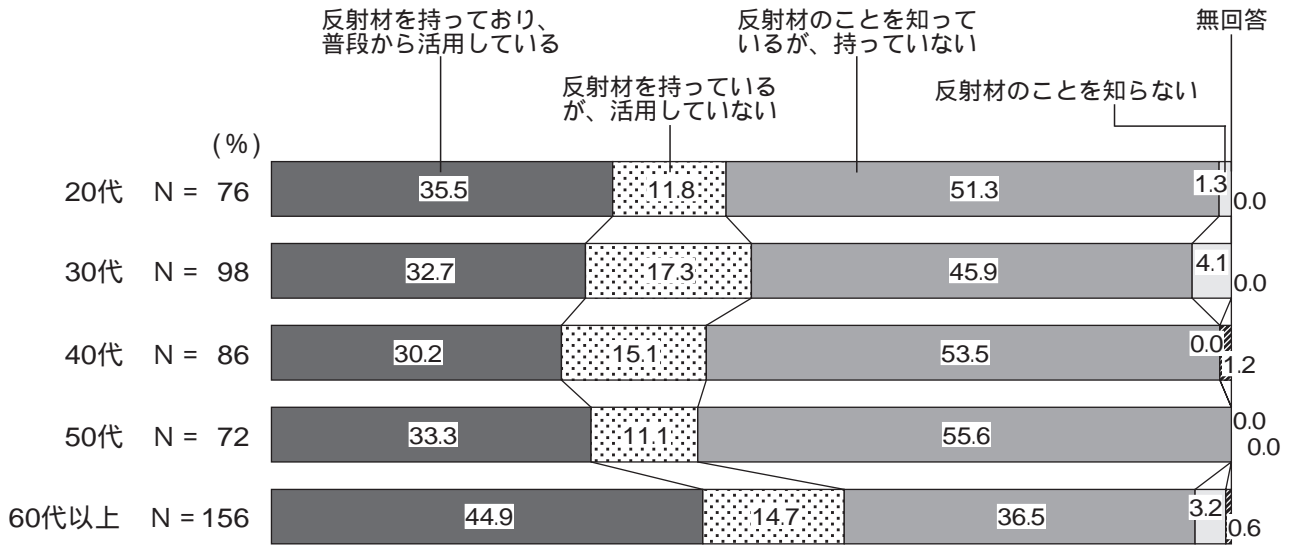
N = 488



夜間の交通事故防止に効果的な反射材を活用しているかを尋ねたところ、「反射材を持っており、普段から活用している」が36.7%、「反射材を持っているが、活用していない」が14.3%、「反射材のことを知っているが、持っていない」が46.5%、「反射材のことを知らない」が2.0%となっている。

年代別にみると、「反射材を持っており、普段から活用している」と答えた人の割合は、60代以上で他の年代に比べ高くなっている。

(年代別)



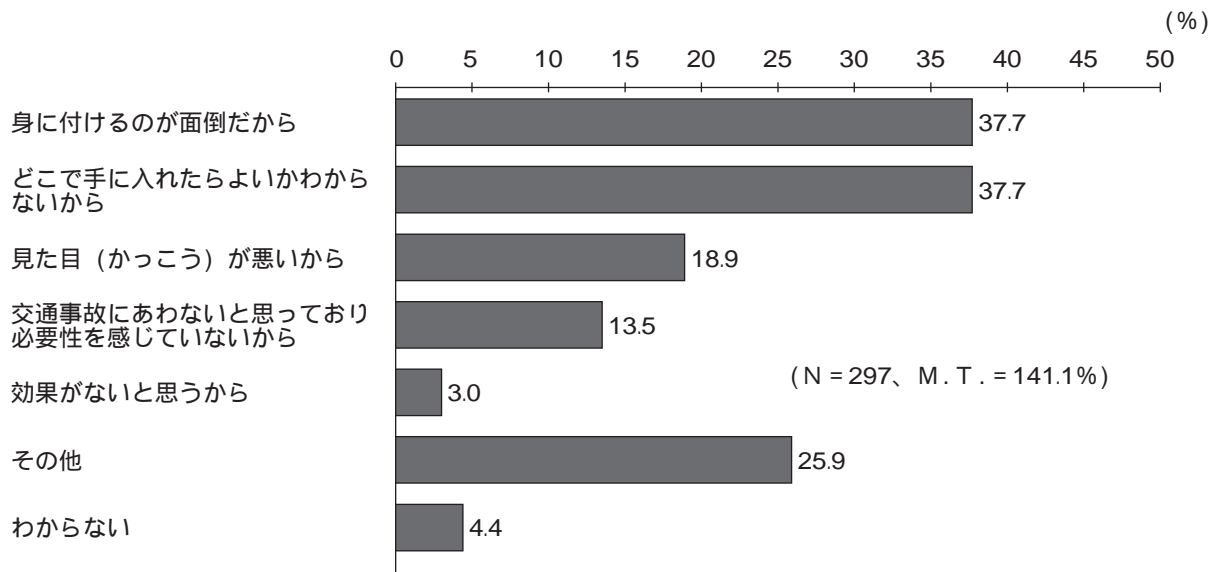
反射材を活用していない方が6割以上を占めており、まだまだ普及しているとは言い難い状況です。

県は、各季節の県民運動等において、反射材の着用を訴えていくとともに、キャンペーンやイベントを通じて、反射材の有効性を実感してもらえるような啓発を進めていきます。

(県民生活部地域安全課)

(問9で2か3を選択した人にお尋ねします。)

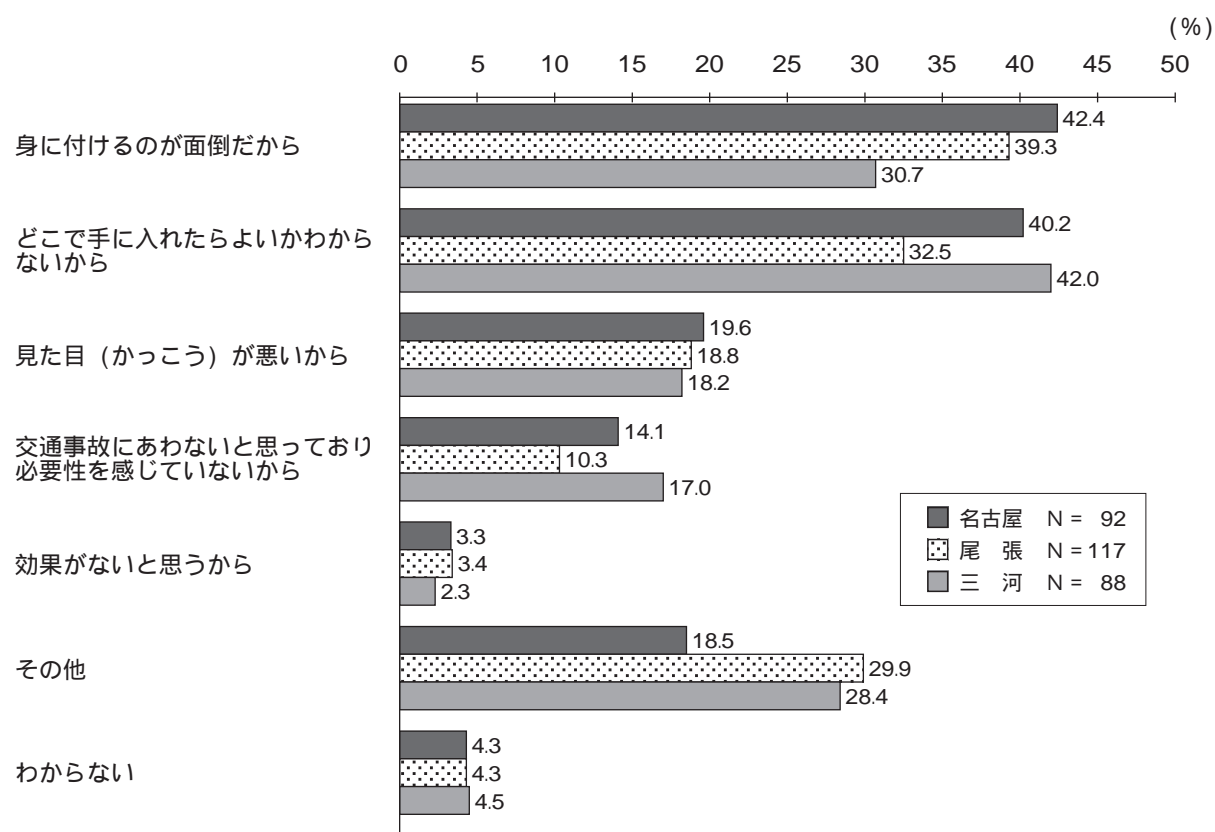
問10 あなたが、反射材を活用していない理由は何ですか。(回答は2つまで)



問9で「反射材を持っているが、活用していない」、「反射材のことを知っているが、持っていない」と回答された方に、反射材を活用していない理由について尋ねたところ、「身に付けるのが面倒だから」が37.7%、「どこで手に入れたらよいかわからないから」が37.7%、「見た目(かっこう)が悪いから」が18.9%、「交通事故にあわないと思っており必要性を感じていないから」が13.5%などとなっている。

地域別にみると、「身に付けるのが面倒だから」と答えた人の割合は、名古屋地域、尾張地域で最も高く、三河地域では「どこで手に入れたらよいかわからないから」が最も高くなっている。

(地域別)



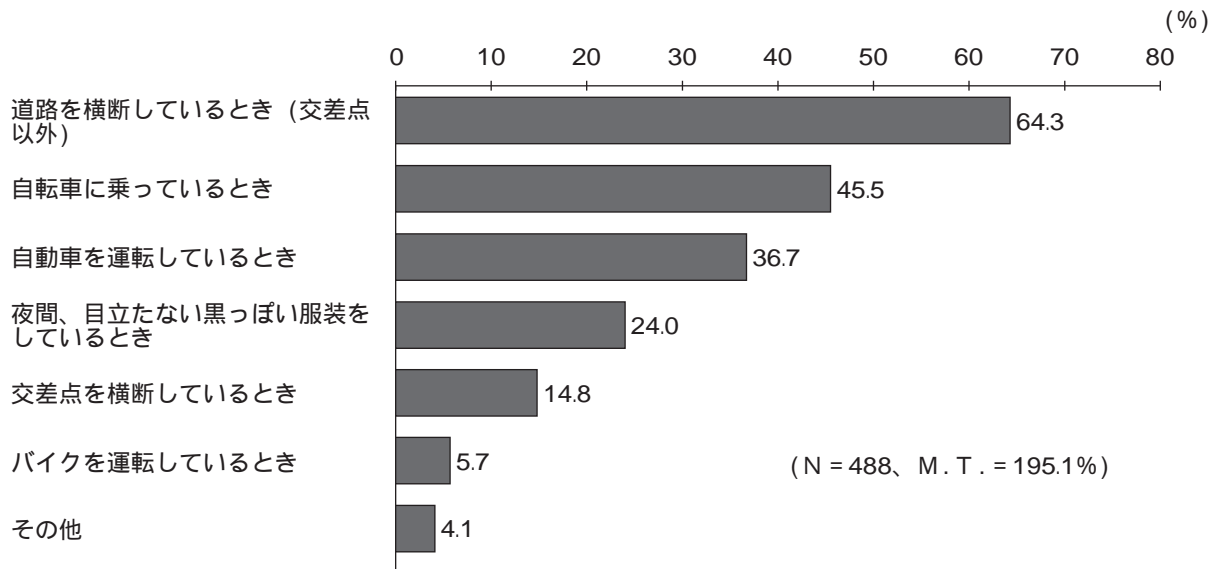
反射材について、「身につけるのが面倒だから」、「どこで手に入れたらよいかわからないから」、「見た目 (かっこう) が悪いから」との回答が多くありました。

県は、今後、キャンペーンやイベントを通じて、反射材の有効性はもとより、身に付けてもらえるような、見た目のよいおしゃれな反射材や入手先の紹介をしていきます。

(県民生活部地域安全課)

6 高齢者の交通事故防止について

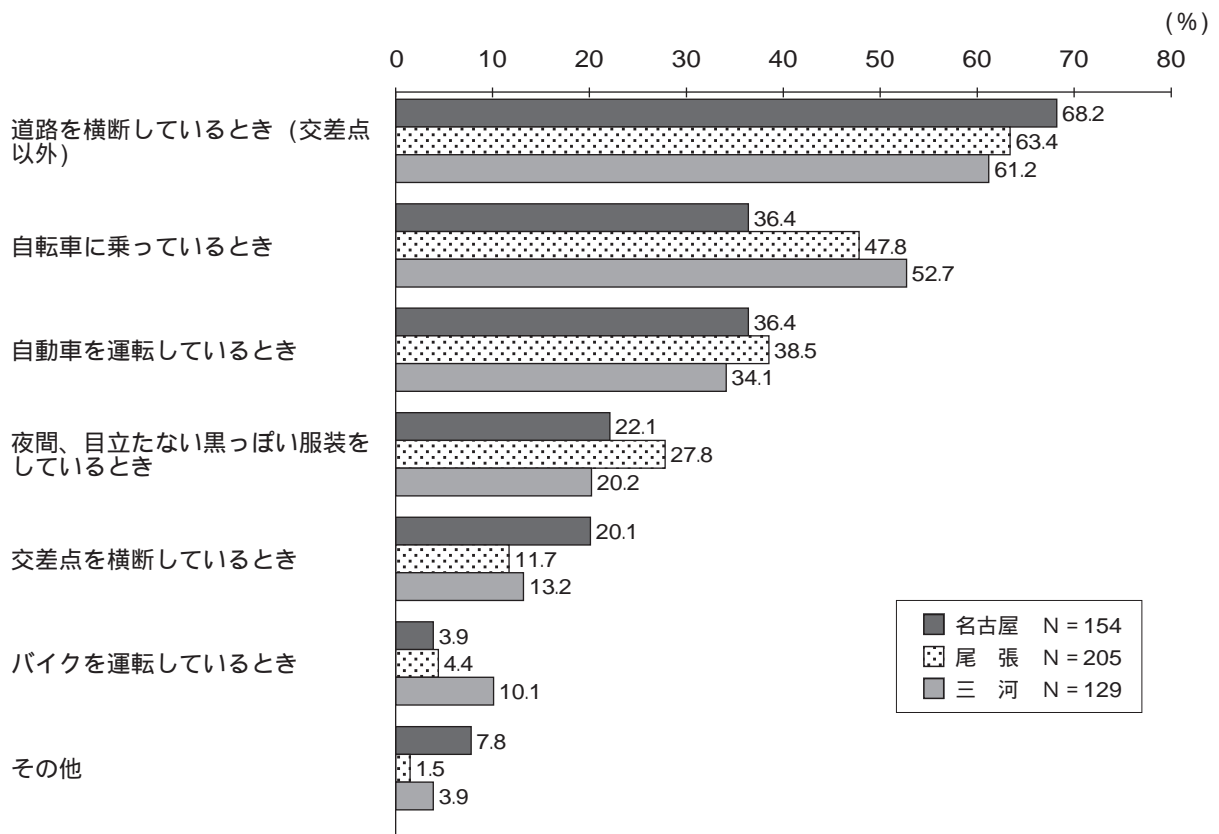
問11 交通事故で亡くなる方のうち、半数近くを65歳以上の高齢者が占めています。あなたが、普段、高齢者の行動で、危険と感じるのは、どういうときですか。(回答は2つまで)



普段、高齢者の行動で危険と感じるのはどういうときかを尋ねたところ、「道路を横断しているとき(交差点以外)」が64.3%、「自転車に乗っているとき」が45.5%、「自動車を運転しているとき」が36.7%、「夜間、目立たない黒っぽい服装をしているとき」が24.0%などとなっている。

地域別にみると、「自転車に乗っているとき」と答えた人の割合は、三河地域で他の地域に比べて高く、尾張地域では「夜間、目立たない黒っぽい服装をしているとき」、名古屋地域では「交差点を横断しているとき」と答えた人の割合が、他の地域に比べて高くなっている。

(地域別)



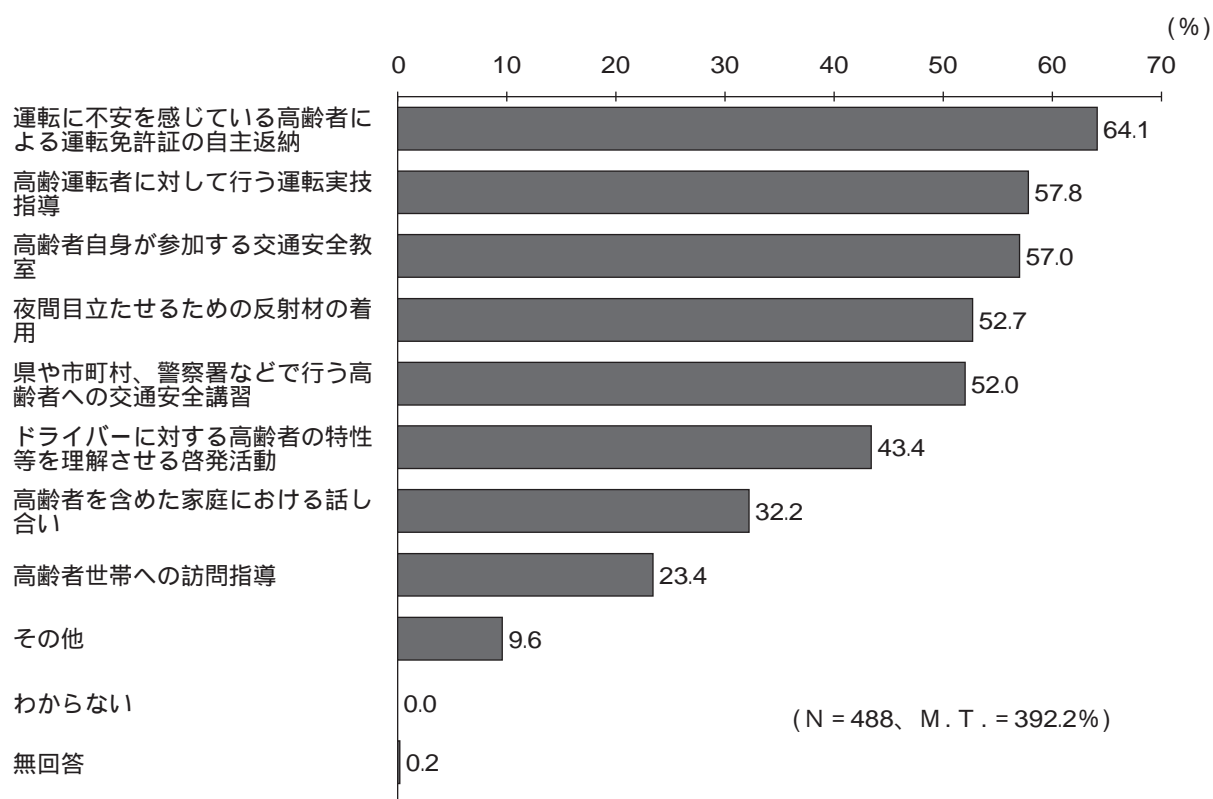
高齢者が道路を横断しているときや自転車に乗っているときに危険を感じているとの回答が多く寄せられました。

県は、高齢者を主な対象とした、歩行者・自転車利用者向けの交通安全教室や歩行環境シミュレータを活用した参加体験型の出張講座を実施していくとともに、「ハンド・アップ運動」を展開し、高齢者自らが安全行動に努めるよう働きかけを行っていきます。

(県民生活部地域安全課)

問12 高齢者の交通事故を防止するためには、どのような取組が効果的だと思いますか。

(回答はいくつでも)

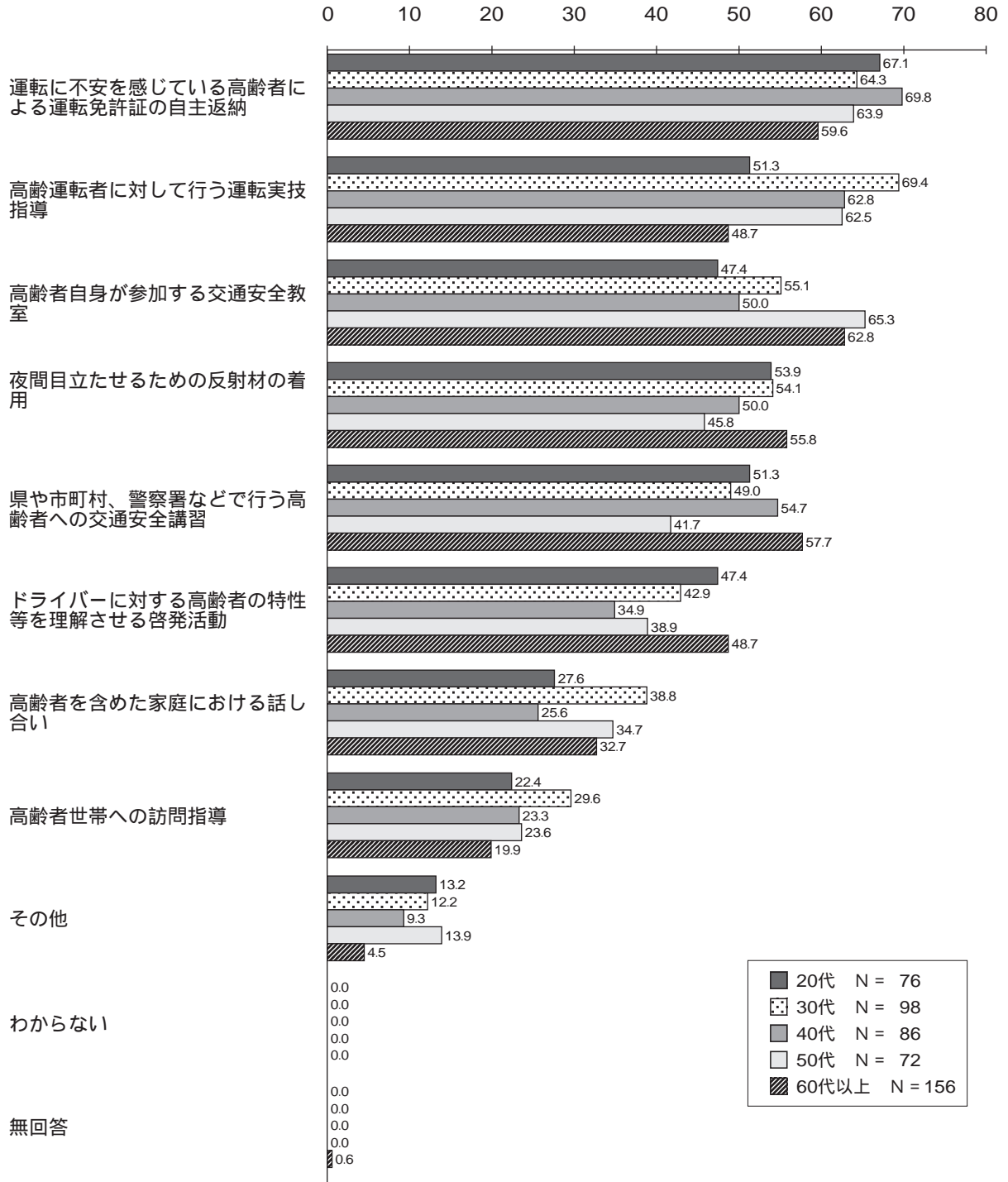


高齢者の交通事故を防止するためには、どのような取組が効果的だと思うかを尋ねたところ、「運転に不安を感じている高齢者による運転免許証の自主返納」が64.1%、「高齢運転者に対して行う運転実技指導」が57.8%で、「高齢者自身が参加する交通安全教室」が57.0%、「夜間目立たせるための反射材の着用」が52.7%などとなっている。

年代別にみると、答えた人の割合が最も高いのは、20代と40代では「運転に不安を感じている高齢者による運転免許証の自主返納」、30代では「高齢運転者に対して行う運転実技指導」、50代、60代以上では「高齢者自身が参加する交通安全教室」となっている。

(年代別)

(%)



多くの人が、高齢者の運転免許の自主返納や高齢者に対する交通安全教室・講習並びに反射材の着用が、高齢者の交通事故防止に有効と考えています。

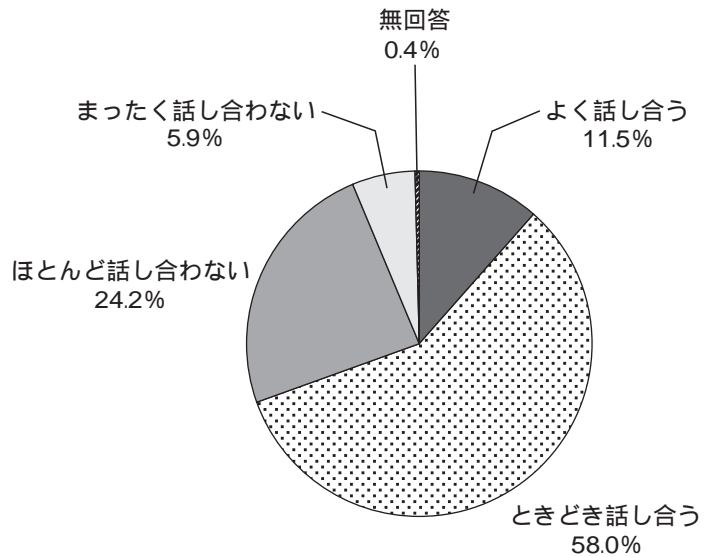
県は、今後、市町村で実施している運転免許証の自主返納を支援する取組の紹介や、参加体験型の交通安全教室の実施等、高齢者の交通事故実態に応じた対策に取り組んでいきます。

(県民生活部地域安全課)

7 家庭における交通安全教育について

問13 あなたの家庭では、交通安全について話し合うことがありますか。(回答は1つ)

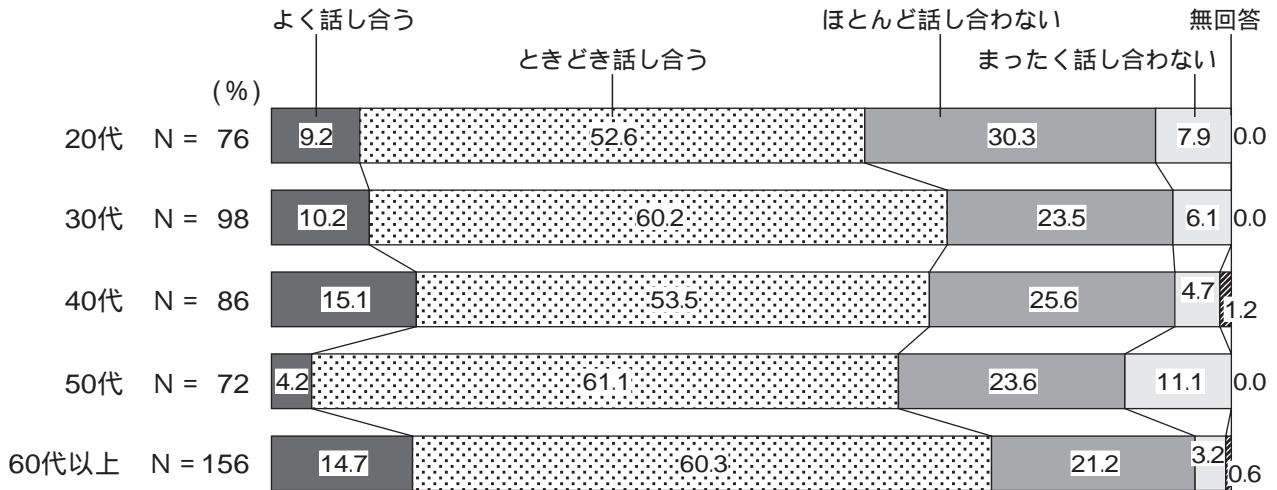
N = 488



家庭で交通安全について話し合うことがあるかを尋ねたところ、「よく話し合う」が11.5%、「ときどき話し合う」が58.0%、「ほとんど話し合わない」が24.2%、「まったく話し合わない」が5.9%となっている。

年代別にみると、「よく話し合う」と「ときどき話し合う」と答えた人の合計割合は、60代以上で75.0%と他の年代に比べて高くなっている。

(年代別)



家庭で交通安全について話し合うことがあるのは全体で約7割です。逆に約3割の家庭では話題にされていません。交通事故は他人事と思っている人がまだまだいます。年代別にみると、やはり事故の多い高齢者の方の話し合う割合が、若い世代より高くなっていますが、さらに多くの方が話し合うことが必要です。

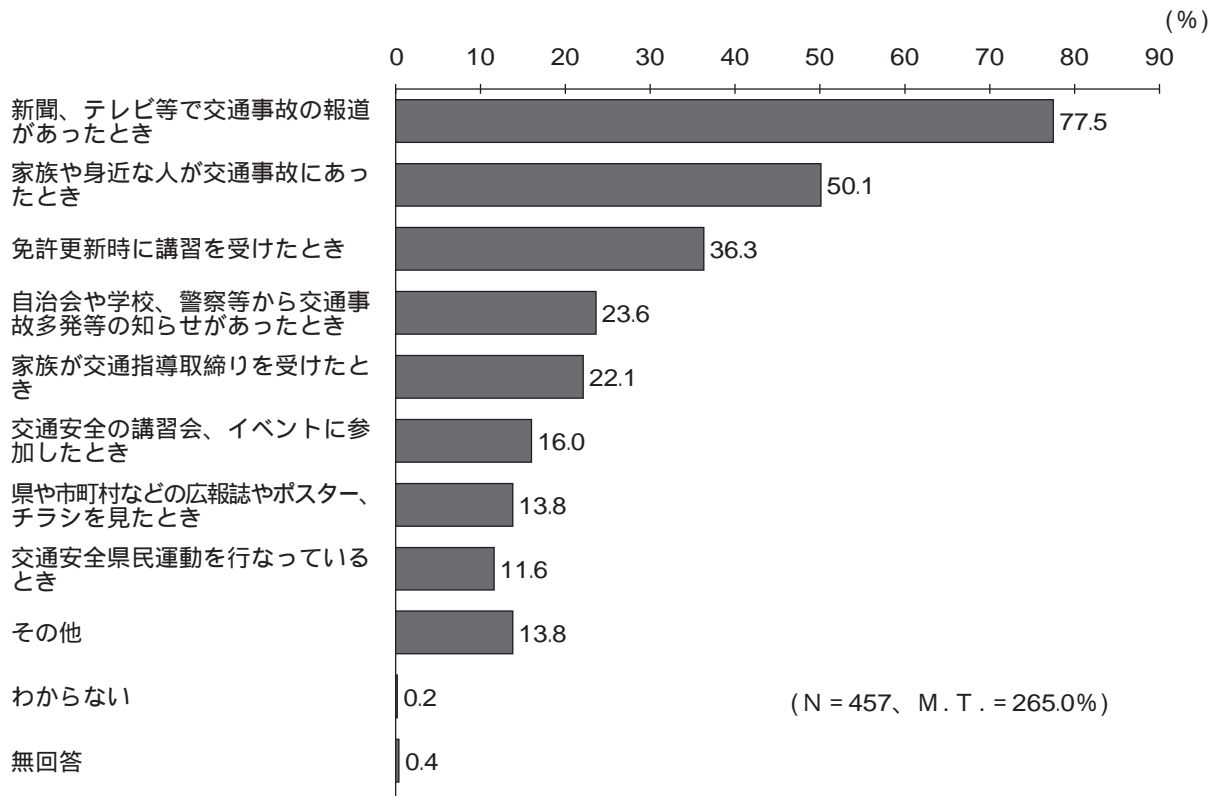
交通安全は家庭からと言われるように、家庭内における話し合いを通じて、交通安全意識を高めるとともに、保護者や家族が自ら納得して安全な交通行動を実践することができるよう、身近に起きている交通事故の実態や、反射材や明るい服装等の着用効果、自転車の安全利用などについて、必要な資料・情報の提供をしていきます。

(県民生活部地域安全課)

(問13で、1・2・3を選択した人にお尋ねします。)

問14 家庭で、交通安全について話し合いをしたり、しようとするきっかけとなるのは何ですか。

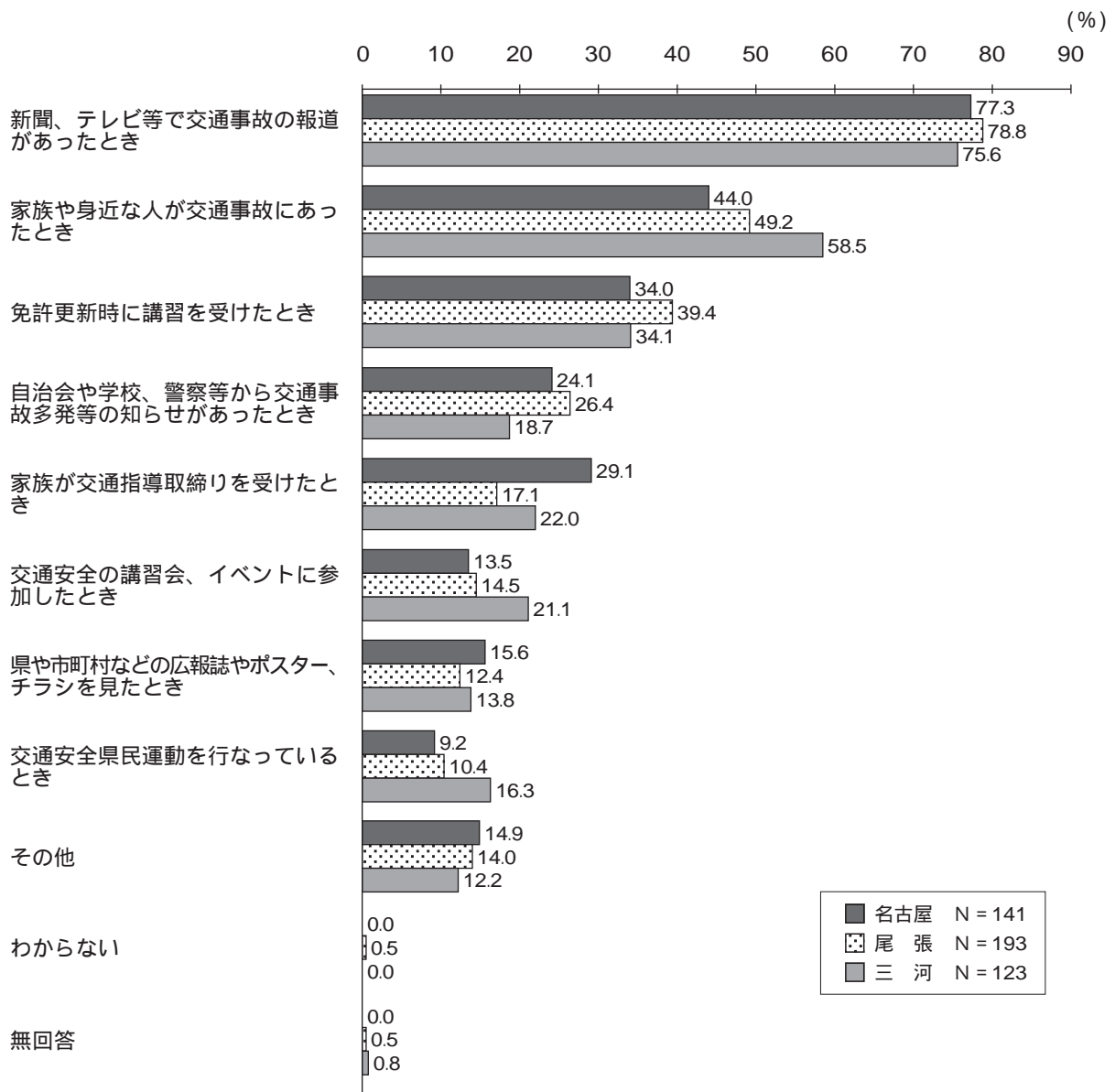
(回答はいくつでも)



問13で「よく話し合う」、「ときどき話し合う」、「ほとんど話し合わない」と回答された方に、家庭で、交通安全について話し合いをしたり、しようとするきっかけとなるのは何かを尋ねたところ、「新聞、テレビ等で交通事故の報道があったとき」が77.5%、「家族や身近な人が交通事故にあったとき」が50.1%、「免許更新時に講習を受けたとき」が36.3%、「自治会や学校、警察等から交通事故多発等の知らせがあったとき」が23.6%などとなっている。

地域別にみると、「家族や身近な人が交通事故にあったとき」と答えた人の割合は、名古屋地域の44.0%、尾張地域の49.2%に対して、三河地域は58.5%と比較的高かった。

(地域別)

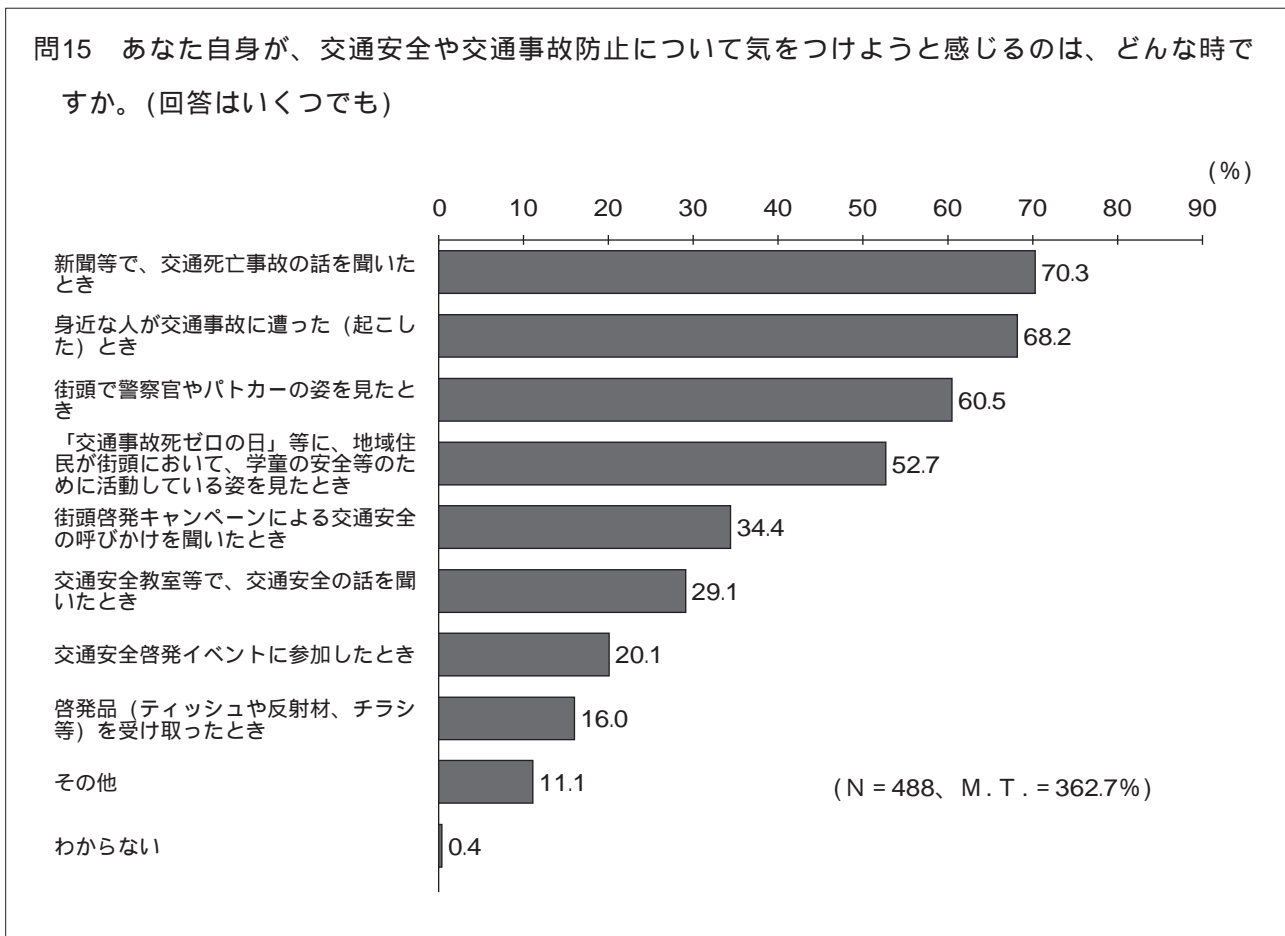


家庭で、交通安全について話し合いをしたり、しようとするきっかけになったりした理由は、「新聞、テレビ等で交通事故の報道があったとき」が最も多いことから、いかにマスコミによる報道の影響が大きいかが分かります。また、「家族や身近な人の事故があったとき」も約5割と高い割合になっていますが、これは必然的とも言えます。

身近で発生している地域の交通事故情勢や、家庭・学校・事業所等の対象に応じた交通安全に関するメッセージが確実に伝わるよう、地域の広報誌・機関紙、インターネット等あらゆるメディアの活用を図っていく必要があります。

(県民生活部地域安全課)

8 交通安全対策の効果について

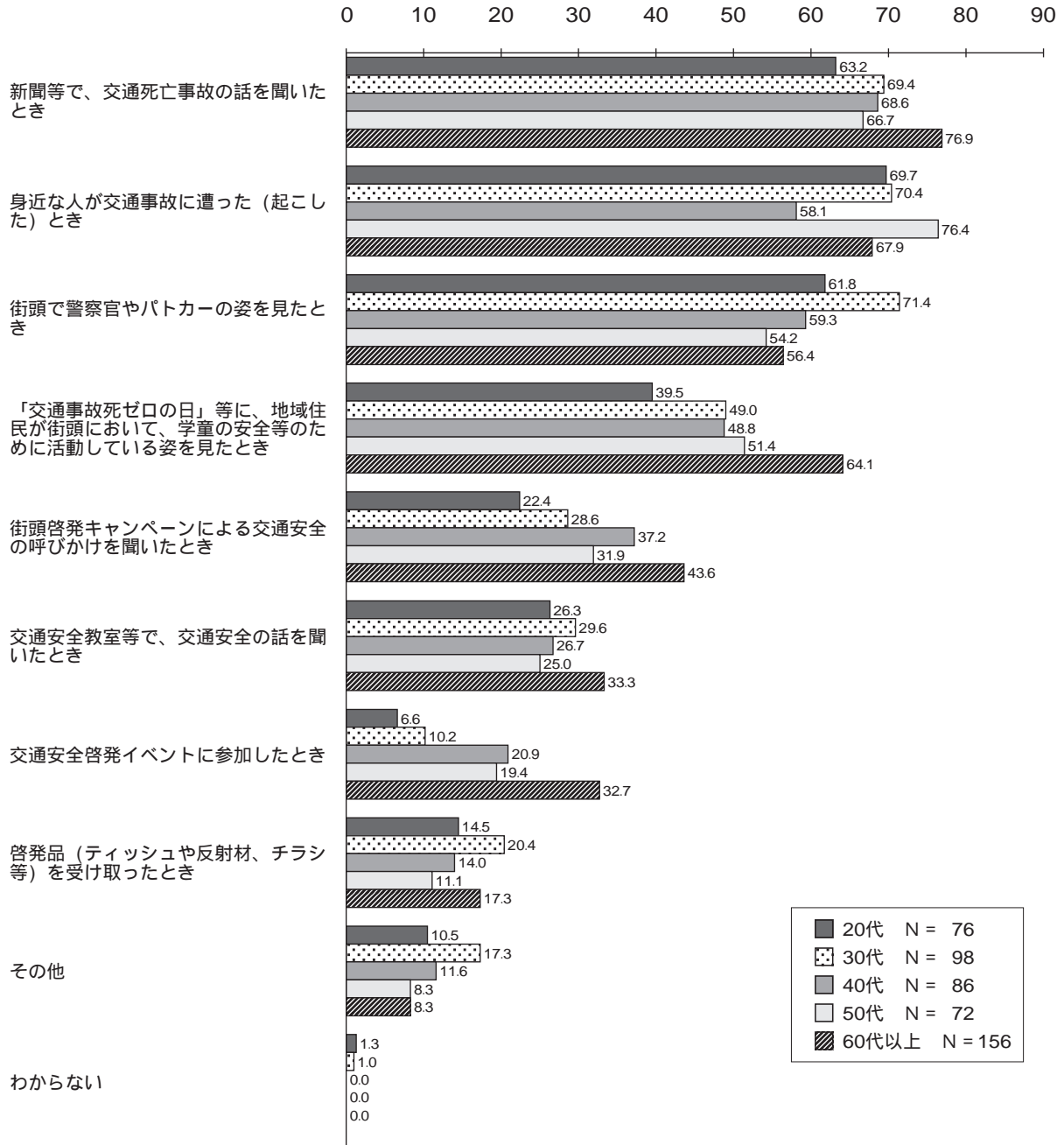


交通安全や交通事故防止について気をつけようと感じるのはどんな時かを尋ねたところ、「新聞等で、交通死亡事故の話を聞いたとき」が70.3%、「身近な人が交通事故に遭った(起こした)とき」が68.2%、「街頭で警察官やパトカーの姿を見たとき」が60.5%、「交通事故死ゼロの日」等に、地域住民が街頭において、学童の安全等のために活動している姿を見たとき」が52.7%などとなっている。

年代別にみると、40代と60代以上では「新聞等で、交通死亡事故の話を聞いたとき」と答えた人の割合が最も高く、20代と50代では「身近な人が交通事故に遭った(起こした)とき」、30代では「街頭で警察官やパトカーの姿を見たとき」がそれぞれ最も高かった。

(年代別)

(%)



「交通安全や交通事故防止について気をつけようと感じるのはどんな時か」は、前の問14と同様にマスコミの報道や身近な人の事故に触れた時と答える方が多い結果となりました。中でも交通事故に遭う率の高い60代以上の年代を見ますと、他の年代よりも関心高く新聞等から情報を得ていることがわかります。

また、地元の地域で生活している高齢者の方が、「交通事故死ゼロの日」等の街頭啓発キャンペーンにもかなり関心を寄せていることがわかりますので、地域住民による地道な街頭啓発活動は今後も継続発展させていく必要があります。もちろん、警察官の巡回等も大変効果的です。

(県民生活部地域安全課)

9 自由意見

問16 交通安全対策に対してご意見があれば、ご自由に記述してください。

県の交通安全対策について、自由に意見を記入していただいたところ、310件の意見が寄せられた。それらを大別すると次表のとおりであり、以下、その意見の要旨をいくつか例示した。

項 目	件 数
(1) 広報啓発活動について	24
(2) 交通安全教育について	16
(3) 運転免許更新時等における講習について	8
(4) 罰則強化について	14
(5) 交通指導取締りについて	39
(6) 交通マナーについて	47
(7) 飲酒運転について	14
(8) 高齢者に対する交通安全について	35
(9) 自転車の安全利用について	28
(10) 道路環境の整備について	30
(11) その他	55
合 計	310

(1) 広報啓発活動について

交通安全にかかわる街頭キャンペーン等があるときには、積極的に参加したいので、愛知県の「どこで」「いつ」あるのか必ず広報紙で知らせて欲しい。翌日の新聞を見て、初めてキャンペーンをやっていたと知ることがよくある。

交通安全は各自のモラルによるところが大きいので、意識の向上はメディアや広報などで訴えていくのが良いと思う。

交通安全対策は本人の自覚によるものも大きいため、その自覚を促す啓発活動を高めて欲しい。

メディア等を活用して、堅苦しい安全教育ではなく、クイズや再現ドラマ風にして、広く交通安全の意識を高めて欲しい。愛知県が死亡事故ワースト上位に入っていることや、事故が多いことは十分広まっていると思うので、その次の意識改革を広める努力を今後して欲しい。

交通事故の悲惨な経験を報道や広報で呼びかけることが大切だと思う。

ほんの少しの油断で、加害者と被害者の一生を台無しにしてしまうほど交通事故は恐ろしいもの

だと感じる。事故を起こす人が、事故を起こすはずが無いと一番思っている。その人にとっては啓発活動も事故報道も他人事にしか聞こえず、自分に照らしあわす事ができないのではないかと思う。そういう方に事故の危険性を理解させる事が一番難しいが、少しずつでも県民全体の認識を高めていき危険を減らしていく事が大事だと思う。

交通安全対策は、ドライバー（自転車を含む）と歩行者それぞれが安全意識を持って、初めて効果の上がるものだと思う。粘り強くキャンペーンや啓発活動が継続する必要がある。

交通安全教室は小学校の時にやっていたけど、大人になってから、そういうイベントに参加したことがなく、イベントがあるなら参加したいと思っているので、交通安全啓発イベントの情報をテレビのCMやインターネットでもっと宣伝して欲しい。

事故は自分の思いこみや慣れによって生じやすくなると思うので、家族まるごと参加型のイベントやクイズなど、楽しいことを含めて学べる機会があると効果的だと思う。

「車」は本当に凶器となることを広く市民に訴える活動ならびに広報を徹底し、想定外をなくして行って欲しい。私自身も注意をしっかりとっていききたい。

車社会の現在、事故の100%撲滅は難しいと思うが、関係機関がたゆまなく啓発、指導することが重要と思う。

今、保育園でも交通安全の指導が行われていて、子どもも身につけてきて、とても良いことだと思う。ただ、大人になると忙しさもあり、交通安全に対する意識が薄くなるので、身近なデパートやお店でイベントとして参加できれば良いと思う。

交通事故は毎日のようにどこかで起きていて後を絶たず、テレビや新聞報道を見る度、心が痛む。自分がいくら気を付けていても、他の人の不注意で事故に巻き込まれてしまうこともあり、ゼロにすることは難しいが、啓発活動や一人一人の心掛けで減らしていくことは可能だと思う。子どもの頃から交通安全教育を強化したり、被害者やその家族の悲しみ・訴えを広く伝えることで、何か県民の心を少しでも動かせるよう、長い目で見た取組をお願いしたい。

ゼロの日は色々な方が道に立っているのに、乱暴な運転も少ないような気がする。こういう機会を増やしていけば、ドライバーの方も安全運転を心掛けてくれると思う。

交通事故死ゼロの日などに、パトカーや街頭で呼びかけている姿を見たり聞いたりすると、気を付けようという気持ちになる。交通事故死が少しでもゼロに近づけられるよう、一人一人の心がけ、意識を高められることを願っている。

(2) 交通安全教育について

1 本裏の通りに入ったりすると歩行者も、自転車も車もあまり交通安全に対する意識が昔と変わらず少ないと思う。地域の町内会や子ども会などで交通安全の意識改革をするための安全教室などを積極的に行うと、少しずつではありますが、交通事故を減らす方向に持って行けるのではないかと思う。

交差点での事故が多発しているため、自治体や企業で、交通安全の講習研修会の実施と、ルール厳守の徹底をしていただきたい。

近年、自分さえ良ければいいと思っている様な若者や学生の自転車・バイク・車の危険な運転を目にするので、小学生位から交通少年団のような活動は、希望参加でなく、学校を挙げて実施して欲しいと感じている。

交通安全対策の効果をあげるには、頭脳が柔軟で素直な幼少期に、教育機関や家庭で知識と行動のあり方を教育していくことを継続して欲しい。

豊田市の交通公園へ行っただが、とても良い施設で、小学1年生の子どもも交通安全のことを一生懸命学んでいた。実際に事故にあってからでは遅いので、幼い頃から、こういう行動は危険ということ教え、体験させることは大事だと思う。このような施設が身近にもっと出来れば良いと思った。

小学生のシートベルトは、学校の交通安全教室の際、親も参加を促して、ぜひ皆やるように教育して欲しい。

学校を通しての交通安全教室の実施はありがたいが、話が多いだけの講習会より、実際に参加したり、事故が起こる様子を具体的に（模擬で）見せるような内容が良いと思う。

小学校で自転車の乗り方教室がありますが、良い機会だと思う。

地域密着型の交通安全教室等があれば良いと思う。子どもから高齢者まで年間に数回開催して、誰でも参加出来る講習会にする事によって、意識向上につながると思われる。また、加害者や被害者の手記を定期的に回覧板や自治会や各市のホームページに掲載する事によって、「起こさない・起こさせない」という良い循環になると思う。

交通安全の重要性については、誰もが大切だと思っているが、普段積極的に実行に移す人となると、相当数が減るように思う。従って、強制的な意識付けが必要であり、例えば、年1回は必ず誰もが交通安全の講習会等に参加する制度を創設する等の取組をすることにより、一時かも知れないが、各個人が交通安全意識を持つことになり、全体として効果があるのではないかなと思う。

最近、プロのスタントマンの方々が小・中学校などで交通安全教室を行っているニュースをテレビで何度か見た。そういったリアルな状況を見る機会があるのは、交通安全に対する意識の向上につながると思う。

(3) 運転免許更新時等における講習について

高齢化が進み、老人のドライバーも増加している現在、危険な運転をする者が目立つ。認知して運転していると思えず、見ていない等判断出来ていないケースが多く、路上が正に戦場のような危険さであり、他県にドライブに行くと愛知のマナーの悪さは特別なものである。高齢者の免許更新に教習上による長時間、一週間程度の再教育期間があっても良いのでは。

運転免許更新講習の内容が形だけになっている。

免許証の更新には、講習会を実施するなどし、運転者への責任感などの強化が必要だと思う。

運転免許更新時、冊子などの文字（本）よりも映像の方が印象強いので、講習は映像で行い、訴える方が効果的と思う。

つい2か月程前に運転免許証の更新を行ったばかりで、その際見せられたDVDに涙したことを思い出した。この機会に今一度、我が家でも交通安全についてよく話し合いたいと思う。

普段自分のことだけで精一杯ですぐに忘れてしまうので、学校や講習所などで、車での事故の悲惨な経験を伝えていくことが、注意のきっかけにつながるのではないかと思った。

(4) 罰則強化について

無謀運転をするドライバーがよくいます。飲酒運転、信号無視、過度なスピード違反者の罰則を更に強化して欲しい。

運転しながら、歩きながらの携帯電話の禁止を強化して欲しい。

運転中の携帯電話の取締りの強化・罰則の強化をして欲しい。運転中に通話しているドライバーがあまりにも多すぎる。

交通安全ルールを順守してもらうにも、個々人に直接痛みを伴う処置が必要に思う。

運転者が起こす飲酒などの交通違反（ルールの上でも悪質なケース）における罰則規定が甘いと思う。人が亡くなる場合は交通違反罰則ではなく殺人罪などの適用に当てはまる裁判制度が必要と思われる。

(5) 交通指導取締りについて

交差点内で警察が監視する機会を増やすべきだと思う。

車を運転している人の中で、携帯を使用しているのをよく見かけるので、もっと厳しく取り締まって欲しい。

本来、横断歩道者を見かけた場合、徐行または停止のはずが、ほとんどが徐行や減速などせず無視、ひどい場合は携帯で電話しながら片手運転でクラクションで威嚇してくる。まずはそれに対する取締り強化が、絶対に必要だと思う。

車を運転していると、名古屋は黄から赤に変わってからでも突っ込んでくる車を見かける。交差点での取締りを増やしたらどうだろうか。

運転において、自信過剰なドライバーが多いように思う。自分は事故を起こさない、事故に遭わない。だからスピードを出しても大丈夫、信号無視をしても大丈夫、と思っているから愛知県の交通事故の数は減らないのだと思う。それを減らすには、警察官の路上取締りが一番効果的だと思うので、もっともっと違反者を取り締まって欲しい。

ウィンカーを出さずに車線変更をしているドライバーを頻繁に見かける。罰則を強化すべきだと思う。事故を引き起こしかねないような行動をドライバーの人たちに自覚してもらうためにも、警察に取締りを強化していただきたい。

この地方のドライバー特有の俗に言う「名古屋走り」すなわち、黄信号でも平気で直進してしまうような通行は、厳しく取り締まるべきだと思う。

特定路線ではなく、白バイ等の取締りが強化されているが、一般道にもパトカー等巡回させて欲しい。

交差点での警察官が朝等、立って道路を通過する車を見る。警察官が立っているだけで、抑止効果があると思う。

愛知県は毎年死亡事故が多いので、「ゼロの日」以外も日頃から注意する必要がある。車を運転しながら携帯電話を利用しているとか、スピードの出し過ぎをもっと厳しく取り締まっていたきたい。

愛知県は、信号無視や右左折する時に方向指示器を出さない人が多くて、私自身、運転していてヒヤットすることが多いので、取り締まって欲しい。

街頭での警察のパトロールを多くして欲しい。パトカーや白バイの姿を見ると、少しでも気を引き締める人は多いと思う。

(6) 交通安全マナーについて

愛知県民の運転は一般的に荒っぽい、スピードも出しすぎの傾向がある。また、高齢者の運転者が多いと思うので、できる限り運転しないよう啓発イベントを行って欲しい。

車を運転している人だけでなく、歩行者、自転車などそれ以外の人の交通安全に対する意識が低いと感じる。

自分も高齢者になってきて車より自転車、徒歩での移動が多くなってきて、横断歩道での車の横暴ぶりが気になる。自分も車中心で移動しているときは気が付かなかったが、横断歩道を渡る際まず歩行者に道を譲ってくれる車はほとんどない。

名古屋は車の運転が荒いとよく聞かすが、私が高齢者に引っ越し、またこちらに戻ってきた時に本当にその通りだと改めて感じた。運転者にも歩行者にも交通安全を呼びかけていくことが必要だと思う。

交通事故が起きる原因で特に根本的なものは、日本人のせっかちさと時間に追われる日々の日常にあると思う。事故を防ぐには歩行者と運転者の協力が不可欠なので、特に乱暴な運転をする人は、なるべく散歩などして歩行者の感覚を取り戻し、視野を広げて欲しい。

自分勝手な運転をするドライバーに、ひやットすることが最近増えた気がする。無理な追い越しやスピードの出しすぎなどがいかに無意味かつ危ないことか、もっと啓蒙して欲しい。

いつも感じるのは、運転する人の心に余裕が無いこと。ほんの些細な事でかっとなった表情をし

たり、赤信号になるぎりぎりでスピードを上げて交差点を通り抜けたり、すごく危ない。時間と心に余裕を持つようにすれば、もっともっと社会もよくなるし交通事故も減ると思う。

最近、ドライバーのマナーが悪くなっているように感じる。なるべくイライラしないように、ゆとりを持って運転するよう心掛けようと思っている。

(7) 飲酒運転について

交通事故が多発しているのは、やはり飲酒運転をするドライバーが多いからだと思う。お店側も飲酒運転させてはいけないという気持ちはあると思うが、提供しているのが実態。実際に刑罰を受けているお店等をテレビやインターネットで大きく取り上げるべきだと思う。

飲酒運転の罰金はもっと高くしたほうが良い。罰金が払える額だと違反者も減らないと思う。

飲酒運転者は運転不適格者として免許を停止することを考えて欲しい。飲酒運転を逃れるためのひき逃げなど論外。厳罰で対応して欲しい。

飲酒運転の取締り強化や、飲食店等においてドライバーにお酒を提供している所の取締り強化を望む。

(8) 高齢者に対する交通安全について

高齢者でも元気で自転車に乗っている人は多いが、本当はほほえましいことなのかと疑問に思う。耳の聞こえも悪くなったり、反射的な動きが遅くなったりしているのだから、ある程度の歳になったら自転車も乗らない方が良いと思う。

高齢者の交通事故が非常に多い。お年寄りが自己過信したうえでの車の運転が非常に危険。自分は注意しているつもりだが、やはり年をとることにより反応が鈍くなると思う。運転できる年齢制限をもっと低くすべきと感じる。

高齢者の運転による事故は社会で防ぐことができると思う。それには車に対する依存度を少しでも少なくして安全で便利な地域を作ること。買い物難民などと言われるような人々を作ることのない、お年寄りでも快適に暮らすことができる愛知県であって欲しいと思う。

高齢者の方は、やはりどうしてもブレーキなどの反応が遅くなったり、アクセルとブレーキを踏み間違えたりしてしまうことが多くなってしまふ。地方などで交通機関が発達しておらず、運転せざるを得ない状況にある場合を除き、家族や周りが注意し自主返納させることが、本人のためにも一番良いのではないか。

運転していて、高齢者の前後左右の確認が出来ていない車線変更等を怖く感じる。運転免許の自主返納ではなく、上限年齢の設定をしても良いと思う。

高齢になるにつれて自分が衰えを感じるが多くなった。自覚が大切だと思う。つもりが間違

いのもと。

高齢者の方には細かい配慮をして、交通安全講習会を自治会時に実施すると効果が出ると思う。

(9) 自転車の安全利用について

自転車が逆走して道路を走っている。イヤホンして聞こえていないのでマナーがなっていない。

自転車が交通ルールを全く無視して走るケースをよく見かける。

子どもを連れて歩道を歩いているとき、自転車に乗った人によくベルを鳴らされる。確かに子どもはどのような動きをするのかわからずに危ないと思うかもしれないが、せめてスピードを落として通過してもらおうか、自転車を引いて通過してもらえようような指導をして欲しい。

自転車のマナーが悪い。信号交差点で歩行者と同じように渡るときは一旦停止して欲しい。また、子どもが携帯電話を片手に話しながら自転車に乗っている。注意ぐらいでは直らないと思うので、子どもにも罰則を与えて欲しい。

最近の高校生の自転車のマナーが極端に悪い。例えば下り道を猛スピードで運転してきて、あわや大事故になりそうになったことがある。老人の様な体力のない者、運動神経のにぶい者には、直接死につながる。もっと積極的に取り締まって欲しい。

最近、歩行者や自転車に乗っている人達のマナーが悪くなっている。特に学生が2、3人横に並んで歩いていたり、自転車を運転している姿をよく見かけて、ドライバーの自分自身も危ないと感じる時が何度もあった。悪質なドライバーもたしかにいるが、歩行者や自転車を運転する人たちも気をつけないと、事故は減少しないと思う。

車の違反も多いが、自転車のマナーも悪い。2列3列で歩道いっぱいになり我物顔で走る高校生、ヘルメットなしで疾走する中学生、滅茶苦茶に走る小学生、横断歩道でないところを平気で渡る中高年、傘差し自転車もとても多い。小学校での自転車の乗り方、交通法規等の教育が重要だと思う。

自転車走行時のルールが無視されている。(全年齢層) 法律・条例があってもなきに等しい状況。休日等に警察は自治体を巻き込んで、街頭指導を積極的に推進すべき。

自転車の安全運転のモラルが欠けているような気がする。自転車に乗る人も安全講習を受けて欲しいと思う。

自転車などは免許がない分、安全運転の意識が低く、自転車走行中に携帯電話をいじっていたり、道路の左側通行ではなかったりする。自動車のドライバーに対して交通事故防止に努めてもらうのは当然であるが、自転車に乗っている人にも交通事故防止に努めてもらう必要があると考えている。

自転車運転者の車両で交通法規の対象であるとの自覚がなさ過ぎる。自転車の取締りを徹底すべき。車と衝突しても自分は弱者だから自分は有利との認識の人が身近にも多くいる。

自転車のマナーが悪い。傘さし運転、携帯電話をしながらの運転、音楽プレイヤーを聴きながらの運転、並列運転など交通違反は罰金を取るべきである。

最近感じるのは小学生の自転車運転のマナーの悪さ。自分に自信があるのか、横暴ぶりが目につく。小学校でも安全指導を徹底していただきたい。

(10) 道路環境の整備について

原則として車道・歩道を物理的に分離する。道幅が狭く、分離が困難な場合は、一方通行とすることを厳格に守れば、交通事故は大幅に減らせると確信している。

名古屋市内には自転車専用レーンが少ないので、もっと増やして欲しい。

夜間交通量の少ない交差点は点滅信号にするなど、実情にあったサイクルにすると信号無視が少なくなると思う。

自動車を運転する人が、分かり易い行き先表示や分岐案内板を設置して欲しい。一瞬で判断出来づらい高齢運転者や初心者等も多いと思う。迷いが事故につながりかねない。

交通標示がわかりにくい所が多いので、地面に表示するなど、場所を確認し見やすい場所にして欲しい。

わき道から急に出てくる人などがいるので、ミラーをできるだけ多く設立してもらいたい。

交通ルールを守ることは大前提だが、例えば私の近所に交通量が多い交差点の右折信号の時間があまりにも短いところがある。短いので無理をして右折しようとするドライバーがとても多く危ないと思う交差点の一つ。交通量に見合った時間設定や、歩車分離式の導入などもっとできることはたくさんあるのではないかと日頃から思う。

毎朝信号のない交差点で、車が止まるタイミングを待っているが、止まる車はいない。信号の数を増やす、歩道の幅を広げるなど、歩行者を優先した街づくりを行うことで、価値観を変えていかなければ問題は解決できない。

大型トラックが自分の前を走っている場面で交差点に入ると信号が確認しにくく、渡り終えたときに赤信号であったと気付き怖さを感じるがあった。信号の高さをもう少し高くしたり、国道で見られる大型信号が普及すれば、お年寄りも確認しやすく事故の減少にもつながると思う。

子どもを自転車に乗せて運転することが多いが、歩道橋が自転車で通れるようになっていても、とても渡る気にはならず、少し遠回りをするか、車と一緒に通行している。安全を考えるとやはり歩車分離信号が有効だと思う。

最近、事故が多発するカーブの所・交差点、また、店の出入口付近の路面にカラー舗装の表示が目立ってきたので、すごく良いと思います。自分自身も看板などにより、注意を払うことが多いので、もっと多くの所でカラー舗装されると良いと思う。

交差点付近には、信号機や道路標識など以外にも、屋外広告物、草木樹木（街路樹）、街灯など様々なものがある。運転手にとって視覚から入る情報が多い現状なので、交差点付近にある屋外広告物や街路樹などを減らし、もっとシンプルにしてみるのも良いかと思う。

運転者のモラル向上もさることながら、ハード面、道路や信号機など、車社会における整備を充

実して欲しい。

(11) その他

私たちは交通事故では加害者・被害者になる可能性があります。自分の身は自分で守る意識を高めて信号などの依存性ととも気をつけて生活したいと考えている。

私自身、事故ゼロの日は街頭に立つ。事故の大半はスピードと思われるので、ゆっくり走って欲しい。

住宅街などで「この交差点危険だなぁ」と感じる箇所がいくつかありますが、そこに住んでいる人でなければ気づかないような小さい交差点なので、そういう場所を伝える機会が欲しいと思う。小学生の子どもがいるので、子どもだけで出かけることも多く、いつも事故なく無事に帰って来るか心配。

運転をするときは事故を想定し、気持ちを引き締めて乗る。スピードを出しすぎない、前方、後方、交差点、信号の無い脇道、夜間など特に注意する。歩行者も交差点では2歩下がり強引に横断歩道を渡らない、ということ意識したい。

小学生の娘のランドセルに、反射材をつけているが、交通量の多い通りを歩くので、日中も心配。

心に余裕がないと速度のオーバーにつながるので、常に予定の時刻5分前到着の心構えが大切だと思う。

小学生低学年、中学年の子がいるので、交通安全には日々関心があり、子どもの安全に気を遣っているつもり。これからも家族の安全を守りたい。

交通事故はいつ起きても不思議ではない事と思う。絶対に安全ということは無いかも知れないが、それに近づこうと努力していきたい。かも知れない運転や右折時や左折時に歩行者自転車の安全確認、交差点や自動車道等での歩行者、自転車やバイク等の保護で減速することなど心掛けたい。

自分自身が（県の交通安全対策に対して）勉強不足を感じたので、もう少し関心を持つ気持ちが大切。また、交通安全は自分自身は大丈夫と置いてはいけない。信号機が青でも車の確認をして交差点を横断するよう気を付けたい。

私は父を交通事故で亡くした。父の脇見運転が原因。事故によって、家族や周りの人も心に傷を負う。一生100%無事故を全員がやれるかと言ったら正直無理だが、シートベルト着用、飲酒運転をしないなど気をつけることは100%出来ると思う。

交通安全の意識を高め、事故のない安全な街になることを望む。

質問と回答 (単位...「総数」:人、「総数」以外:%、四捨五入により合計は必ずしも100%にならない)

1 後部座席のシートベルト着用について

問1 平成20年6月から、後部座席も含めたすべての座席においてシートベルトの着用が義務化されました(行政処分は高速道路のみ)が、知っていますか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	488	245	243	154	205	129	76	98	86	72	156
1 全席着用義務化は知っており、後部座席での着用も実践している	48.8	51.8	45.7	50.0	49.3	46.5	40.8	51.0	50.0	36.1	56.4
2 全席着用義務化は知っているが、後部座席では着用していない	32.0	33.5	30.5	31.2	33.2	31.0	36.8	33.7	23.3	37.5	30.8
3 全席着用義務化について少しは知っていたが、義務化されたのは、高速道路等だけだと思っていた	17.2	13.5	21.0	16.2	16.1	20.2	19.7	13.3	25.6	23.6	10.9
4 後部座席の着用義務化については、全く知らなかった	1.8	0.8	2.9	1.9	1.5	2.3	2.6	1.0	1.2	2.8	1.9
無回答	0.2	0.4	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0

(問1で2を選択した人にお尋ねします。)

問2 後部座席でシートベルトを着用しないのは、なぜですか。(回答は2つまで)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	156	82	74	48	68	40	28	33	20	27	48
1 後部座席では事故が起きて前部座席より安全だと思うから	16.7	22.0	10.8	20.8	13.2	17.5	10.7	6.1	20.0	11.1	29.2
2 後部座席ではシートベルトの着用は窮屈で面倒だから	67.9	75.6	59.5	68.8	69.1	65.0	71.4	75.8	50.0	66.7	68.8
3 後部座席でのシートベルト非着用(一般道路)は行政処分の対象(違反点数1点)になっていないから	34.6	41.5	27.0	33.3	36.8	32.5	39.3	24.2	40.0	33.3	37.5
4 運転者が安全運転しているから	8.3	7.3	9.5	10.4	8.8	5.0	3.6	9.1	5.0	3.7	14.6
5 その他	22.4	15.9	29.7	16.7	22.1	30.0	25.0	27.3	15.0	22.2	20.8
6 わからない	2.6	1.2	4.1	2.1	1.5	5.0	3.6	3.0	5.0	3.7	0.0
無回答	0.6	1.2	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0

2 飲酒運転の根絶について

問3 愛知県では、残念なことに飲酒運転による交通死亡事故の発生件数が減少傾向にあるものの、全国で最も多い状況が過去3年続いています。

罰則や行政処分が強化されているにもかかわらず、飲酒運転が依然後を絶たないのはなぜだと思いますか。 (回答は2つまで)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	488	245	243	154	205	129	76	98	86	72	156
1 自分だけは飲酒しても事故を起こさないと考えている人が多いから	73.2	71.8	74.5	70.1	75.6	72.9	76.3	78.6	72.1	61.1	74.4
2 捕まらなければ平気だと考えている人が多いから	66.4	63.7	69.1	65.6	65.4	69.0	77.6	68.4	73.3	65.3	56.4
3 飲酒運転に対する罰則の強化が十分に浸透していないから	10.7	11.0	10.3	10.4	11.2	10.1	7.9	7.1	9.3	13.9	13.5
4 飲食店等においてドライバーにもお酒を提供している実態があるから	23.2	24.1	22.2	23.4	26.3	17.8	17.1	19.4	25.6	20.8	28.2
5 自動車運転代行サービスが十分利用されていないから	8.6	7.8	9.5	7.1	7.8	11.6	10.5	8.2	3.5	12.5	9.0
6 携帯電話の取締情報サイト等により取締りに関する情報が蔓延しているから	2.3	3.3	1.2	3.9	0.5	3.1	1.3	2.0	2.3	4.2	1.9
7 その他	7.0	9.8	4.1	6.5	7.3	7.0	6.6	6.1	4.7	8.3	8.3
8 わからない	0.2	0.0	0.4	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6
無回答	0.4	0.4	0.4	1.3	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	1.4	0.0

問4 飲酒運転を根絶させるためにどのような活動が効果的だと思いますか。(回答は2つまで)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	488	245	243	154	205	129	76	98	86	72	156
1 新聞、テレビ、ラジオなどの広報を強化する	24.0	24.5	23.5	26.0	24.4	20.9	18.4	21.4	29.1	19.4	27.6
2 お酒を提供する場合は、ドライバーの確認を義務付ける条例を制定するなど、飲酒運転を根絶する社会環境を築く	61.9	58.0	65.8	57.1	63.9	64.3	65.8	62.2	51.2	65.3	64.1
3 飲酒運転で事故を起こした受刑者の手記や飲酒運転被害者・遺族の手記の朗読等心の琴線に訴える啓発活動を進める	27.5	30.6	24.3	27.3	28.3	26.4	36.8	26.5	26.7	22.2	26.3
4 飲酒運転根絶キャンペーン等により、飲酒運転の悪質性やもたらす悲劇を訴え、県民の根絶機運を高める	48.2	44.9	51.4	44.2	51.7	47.3	32.9	41.8	48.8	56.9	55.1
5 その他	18.6	22.9	14.4	20.1	14.6	23.3	23.7	27.6	17.4	13.9	13.5
6 わからない	0.4	0.8	0.0	0.6	0.0	0.8	0.0	0.0	1.2	0.0	0.6
無回答	0.8	0.4	1.2	1.9	0.0	0.8	0.0	1.0	1.2	0.0	1.3

3 夕暮れ時の交通事故防止（早めのライト点灯）について

問5 愛知県では、夕暮れ時の交通事故を防止するために、自動車のライトを早めに点灯させる「ライト&ライト運動」を展開していますが、あなた（家族の方）は、夕暮れ時に早めにライトを点灯していますか。（回答は1つ）

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	488	245	243	154	205	129	76	98	86	72	156
1 自動車を運転するときは、日中でもライトを点灯している	2.0	1.6	2.5	3.2	2.0	0.8	3.9	1.0	3.5	1.4	1.3
2 早めのライト点灯を心がけている（おおむね日没の1時間から30分前には点灯している。）	62.7	64.9	60.5	56.5	65.4	65.9	47.4	63.3	65.1	70.8	64.7
3 日没後、暗くなり始めてから点灯している	33.0	31.0	35.0	39.0	30.2	30.2	43.4	32.7	30.2	27.8	32.1
4 暗くなってから点灯している	2.0	2.4	1.6	0.6	2.4	3.1	5.3	3.1	1.2	0.0	1.3
無回答	0.2	0.0	0.4	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6

（問5で、3か4を選択した人にお尋ねします。）

問6 ライトの早めの点灯をしていない理由は、何ですか。（回答は2つまで）

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	171	82	89	61	67	43	37	35	27	20	52
1 ライトを早めに点灯することが、交通事故防止につながることをしらなかったから	17.0	8.5	24.7	16.4	17.9	16.3	21.6	17.1	14.8	15.0	15.4
2 ライトを早めに点灯しても、事故防止には直接関係ないと思うから	18.1	26.8	10.1	21.3	22.4	7.0	16.2	11.4	22.2	20.0	21.2
3 まだ、辺りが暗くないのにライトを点灯する必要性がないと思うから	63.7	67.1	60.7	62.3	64.2	65.1	62.2	60.0	40.7	80.0	73.1
4 バッテリーが消耗してしまうのがもったいないから	11.7	13.4	10.1	9.8	13.4	11.6	16.2	14.3	18.5	10.0	3.8
5 周囲の自動車がライトを点灯していないから	39.8	34.1	44.9	41.0	29.9	53.5	37.8	37.1	44.4	35.0	42.3
6 その他	7.6	8.5	6.7	6.6	9.0	7.0	2.7	5.7	3.7	20.0	9.6
7 わからない	0.6	0.0	1.1	0.0	1.5	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0
無回答	0.6	1.2	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9

4 交差点の事故防止対策について

問7 県内では、交通死亡事故の約6割が交差点で発生しており、この割合は、全国平均より2割高くなっています。なぜ、愛知県では、交差点事故の割合が高いと思いますか。(回答は2つまで)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	488	245	243	154	205	129	76	98	86	72	156
1 信号を守らないドライバーが多いから	45.5	50.2	40.7	40.3	48.8	46.5	42.1	44.9	47.7	45.8	46.2
2 信号を守らない歩行者・自転車利用者が多いから	35.7	35.9	35.4	47.4	32.2	27.1	38.2	31.6	34.9	31.9	39.1
3 右左折する際に安全確認が不十分なドライバーが多いから	40.4	38.8	42.0	42.2	39.0	40.3	40.8	36.7	36.0	36.1	46.8
4 交差点へ侵入する際に減速が不十分な自動車が多いから	33.2	31.4	35.0	29.9	37.6	30.2	36.8	28.6	29.1	36.1	35.3
5 交通渋滞が多く、先を急いでいるドライバーが多いから	24.8	21.2	28.4	18.8	24.9	31.8	23.7	30.6	26.7	27.8	19.2
6 赤信号の待ち時間が長いから	3.3	3.7	2.9	3.9	2.9	3.1	3.9	2.0	1.2	4.2	4.5
7 その他	8.0	9.4	6.6	9.7	5.4	10.1	9.2	11.2	8.1	11.1	3.8
8 わからない	1.0	1.2	0.8	1.3	1.0	0.8	0.0	3.1	0.0	0.0	1.3
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問8 交差点における事故を減らすためには、どんな対策が効果的だと思いますか。(回答は2つまで)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	488	245	243	154	205	129	76	98	86	72	156
1 交差点の危険性などを知らせる啓発チラシや交通安全講習による啓発	10.9	13.9	7.8	10.4	11.2	10.9	10.5	6.1	8.1	12.5	14.7
2 事故が多発する交差点であることを示す看板等による周知	32.4	29.4	35.4	29.9	34.1	32.6	34.2	30.6	32.6	26.4	35.3
3 事故が多発交差点を目立たせる路面表示(カラー舗装)	66.6	64.5	68.7	57.8	71.2	69.8	63.2	69.4	74.4	61.1	64.7
4 歩行者と車の流れを分離する歩車分離信号の導入	57.0	57.6	56.4	61.7	51.7	59.7	61.8	59.2	52.3	55.6	56.4
5 その他	10.0	12.7	7.4	14.3	6.8	10.1	9.2	12.2	9.3	12.5	8.3
6 わからない	1.0	1.2	0.8	0.6	1.0	1.6	0.0	2.0	0.0	1.4	1.3
無回答	1.2	2.0	0.4	1.3	1.5	0.8	0.0	0.0	1.2	2.8	1.9

5 夜間の交通事故防止（反射材）について

問9 夜間の交通事故を防止するためには、反射材を身に着けたり、自転車につけたりすることが効果的ですが、あなたは反射材を活用していますか。（回答は1つ）

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	488	245	243	154	205	129	76	98	86	72	156
1 反射材を持っており、普段から活用している	36.7	38.4	35.0	37.0	40.5	30.2	35.5	32.7	30.2	33.3	44.9
2 反射材を持っているが、活用していない	14.3	14.7	14.0	14.9	14.6	13.2	11.8	17.3	15.1	11.1	14.7
3 反射材のことを知っているが、もっていない	46.5	43.7	49.4	44.8	42.4	55.0	51.3	45.9	53.5	55.6	36.5
4 反射材のことを知らない	2.0	2.4	1.6	3.2	2.0	0.8	1.3	4.1	0.0	0.0	3.2
無回答	0.4	0.8	0.0	0.0	0.5	0.8	0.0	0.0	1.2	0.0	0.6

（問9で2か3を選択した人にお尋ねします。）

問10 あなたが、反射材を活用していない理由は何ですか。（回答は2つまで）

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	297	143	154	92	117	88	48	62	59	48	80
1 身に付けるのが面倒だから	37.7	42.0	33.8	42.4	39.3	30.7	37.5	40.3	32.2	39.6	38.8
2 効果がないと思うから	3.0	4.2	1.9	3.3	3.4	2.3	2.1	0.0	1.7	6.3	5.0
3 見た目（かっこう）が悪いから	18.9	23.8	14.3	19.6	18.8	18.2	25.0	30.6	18.6	6.3	13.8
4 どこで手に入れたらよいかわからないから	37.7	40.6	35.1	40.2	32.5	42.0	45.8	37.1	45.8	35.4	28.8
5 交通事故にあわないと思っており必要性を感じていないから	13.5	15.4	11.7	14.1	10.3	17.0	8.3	12.9	5.1	16.7	21.3
6 その他	25.9	15.4	35.7	18.5	29.9	28.4	16.7	24.2	23.7	29.2	32.5
7 わからない	4.4	5.6	3.2	4.3	4.3	4.5	4.2	3.2	8.5	4.2	2.5
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

6 高齢者の交通事故防止について

問11 交通事故で亡くなる方のうち、半数近くを65歳以上の高齢者が占めています。あなたが、普段、高齢者の行動で、危険と感ずるのは、どういうときですか。(回答は2つまで)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	488	245	243	154	205	129	76	98	86	72	156
1 道路を横断しているとき (交差点以外)	64.3	60.8	67.9	68.2	63.4	61.2	59.2	57.1	70.9	72.2	64.1
2 交差点を横断しているとき	14.8	18.8	10.7	20.1	11.7	13.2	17.1	17.3	11.6	8.3	16.7
3 自転車に乗っているとき	45.5	43.3	47.7	36.4	47.8	52.7	51.3	41.8	44.2	48.6	44.2
4 自動車を運転しているとき	36.7	36.7	36.6	36.4	38.5	34.1	40.8	51.0	41.9	29.2	26.3
5 バイクを運転しているとき	5.7	8.2	3.3	3.9	4.4	10.1	6.6	3.1	4.7	5.6	7.7
6 夜間、目立たない黒っぽい服装をしているとき	24.0	22.9	25.1	22.1	27.8	20.2	17.1	15.3	18.6	23.6	35.9
7 その他	4.1	3.7	4.5	7.8	1.5	3.9	3.9	6.1	2.3	8.3	1.9
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問12 高齢者の交通事故を防止するためには、どのような取組が効果的だと思いますか。

(回答はいくつでも)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	488	245	243	154	205	129	76	98	86	72	156
1 高齢者を含めた家庭における話し合い	32.2	33.1	31.3	28.6	37.1	28.7	27.6	38.8	25.6	34.7	32.7
2 県や市町村、警察署などで行う高齢者への交通安全講習	52.0	53.1	51.0	50.6	54.1	50.4	51.3	49.0	54.7	41.7	57.7
3 高齢者世帯への訪問指導	23.4	24.9	21.8	18.8	22.9	29.5	22.4	29.6	23.3	23.6	19.9
4 高齢者自身が参加する交通安全教室	57.0	59.2	54.7	50.6	62.0	56.6	47.4	55.1	50.0	65.3	62.8
5 高齢運転者に対して行う運転実技指導	57.8	55.1	60.5	57.8	56.6	59.7	51.3	69.4	62.8	62.5	48.7
6 運転に不安を感じている高齢者による運転免許証の自主返納	64.1	66.1	62.1	68.2	62.9	61.2	67.1	64.3	69.8	63.9	59.6
7 夜間目立たせるための反射材の着用	52.7	51.4	53.9	49.4	56.1	51.2	53.9	54.1	50.0	45.8	55.8
8 ドライバーに対する高齢者の特性等を理解させる啓発活動	43.4	46.1	40.7	48.1	40.5	42.6	47.4	42.9	34.9	38.9	48.7
9 その他	9.6	10.6	8.6	9.1	7.8	13.2	13.2	12.2	9.3	13.9	4.5
10 わからない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.2	0.4	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6

7 家庭における交通安全教育について

問13 あなたの家庭では、交通安全について話し合うことがありますか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	488	245	243	154	205	129	76	98	86	72	156
1 よく話し合う	11.5	11.0	11.9	11.0	11.7	11.6	9.2	10.2	15.1	4.2	14.7
2 ときどき話し合う	58.0	58.0	58.0	51.9	59.5	62.8	52.6	60.2	53.5	61.1	60.3
3 ほとんど話し合わない	24.2	22.4	25.9	28.6	22.9	20.9	30.3	23.5	25.6	23.6	21.2
4 まったく話し合わない	5.9	7.8	4.1	8.4	5.4	3.9	7.9	6.1	4.7	11.1	3.2
無回答	0.4	0.8	0.0	0.0	0.5	0.8	0.0	0.0	1.2	0.0	0.6

(問13で、1・2・3を選択した人にお尋ねします。)

問14 家庭で、交通安全について話し合いをしたり、しようとするきっかけとなるのは何ですか。

(回答はいくつでも)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	457	224	233	141	193	123	70	92	81	64	150
1 交通安全県民運動を行なっているとき	11.6	14.7	8.6	9.2	10.4	16.3	11.4	9.8	16.0	7.8	12.0
2 家族や身近な人が交通事故にあったとき	50.1	52.7	47.6	44.0	49.2	58.5	57.1	41.3	44.4	45.3	57.3
3 新聞、テレビ等で交通事故の報道があったとき	77.5	77.2	77.7	77.3	78.8	75.6	71.4	70.7	76.5	82.8	82.7
4 交通安全の講習会、イベントに参加したとき	16.0	17.9	14.2	13.5	14.5	21.1	8.6	10.9	17.3	14.1	22.7
5 自治会や学校、警察等から交通事故多発等の知らせがあったとき	23.6	23.2	24.0	24.1	26.4	18.7	12.9	25.0	23.5	15.6	31.3
6 県や市町村などの広報誌やポスター、チラシを見たとき	13.8	16.5	11.2	15.6	12.4	13.8	10.0	10.9	13.6	10.9	18.7
7 家族が交通指導取締りを受けたとき	22.1	25.9	18.5	29.1	17.1	22.0	21.4	20.7	18.5	28.1	22.7
8 免許更新時に講習を受けたとき	36.3	35.3	37.3	34.0	39.4	34.1	24.3	32.6	21.0	46.9	48.0
9 その他	13.8	13.8	13.7	14.9	14.0	12.2	14.3	30.4	11.1	14.1	4.7
10 わからない	0.2	0.4	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0
無回答	0.4	0.0	0.9	0.0	0.5	0.8	0.0	0.0	0.0	1.6	0.7

8 交通安全対策の効果について

問15 あなた自身が、交通安全や交通事故防止について気をつけようと感じるのは、どんな時ですか。

(回答はいくつでも)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代 以上
総数	488	245	243	154	205	129	76	98	86	72	156
1 「交通事故死ゼロの日」等に、地域住民が街頭において、学童の安全等のために活動している姿を見たとき	52.7	54.3	51.0	51.3	54.1	51.9	39.5	49.0	48.8	51.4	64.1
2 街頭啓発キャンペーンによる交通安全呼びかけを聞いたとき	34.4	37.1	31.7	32.5	37.6	31.8	22.4	28.6	37.2	31.9	43.6
3 街頭で警察官やパトカーの姿を見たとき	60.5	60.0	60.9	58.4	61.0	62.0	61.8	71.4	59.3	54.2	56.4
4 交通安全教室等で、交通安全の話を聞いたとき	29.1	30.2	28.0	18.2	35.6	31.8	26.3	29.6	26.7	25.0	33.3
5 新聞等で、交通死亡事故の話を聞いたとき	70.3	67.3	73.3	70.8	71.7	67.4	63.2	69.4	68.6	66.7	76.9
6 啓発品（ティッシュや反射材、チラシ等）を受け取ったとき	16.0	16.3	15.6	14.3	19.5	12.4	14.5	20.4	14.0	11.1	17.3
7 身近な人が交通事故に遭った（起こした）とき	68.2	66.5	70.0	60.4	71.7	72.1	69.7	70.4	58.1	76.4	67.9
8 交通安全啓発イベントに参加したとき	20.1	23.3	16.9	21.4	20.5	17.8	6.6	10.2	20.9	19.4	32.7
9 その他	11.1	9.0	13.2	14.3	10.2	8.5	10.5	17.3	11.6	8.3	8.3
10 わからない	0.4	0.0	0.8	0.6	0.5	0.0	1.3	1.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

平成23年度第3回県政モニターアンケート報告書

「 交 通 安 全 対 策 」
平 成 2 3 年 1 1 月 発 行
愛 知 県 知 事 政 策 局 広 報 広 聴 課
名 古 屋 市 中 区 三 の 丸 三 丁 目 1 番 2 号
電 話 (0 5 2) 9 5 4 - 6 1 6 9 (ダ イ ヤ ル イ ン)

この冊子は、再生紙を使用しています。

